

平成 27 年度

# 授業ガイド

高崎健康福祉大学大学院

保健医療学研究科看護学専攻修士課程

科目区分	共通領域分野		
科目名	保健医療統計特論	英文名	Health and Medical Statistics
担当者	宮崎 有紀子、竹内 伸行		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	保健・看護等、医療系分野における研究に必要な情報の収集・分析方法及び統計的方法の基礎と応用について教授する。統計的方法と研究デザイン、データ集計の方法、多変量解析等について教授するとともに、統計ソフトを用いた演習を通して解析の実際を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計的方法と研究デザインについて理解を深めることができる。</li> <li>2. 母集団と標本の概念について理解し、推測統計の考え方を理解することができる。</li> <li>3. 様々な統計解析法の考え方を理解し、研究過程での適用の判断ができる。</li> <li>4. 統計ソフトを利用して、データ解析ができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 オリエンテーション・データの性質（宮崎） 第2回 データの記述・代表値とばらつき（宮崎） 第3回 標本抽出法（宮崎） 第4回 二変量の関係（宮崎） 第5回 統計的推測（宮崎） 第6回 統計的検定（宮崎） 第7回 さまざまな検定手法（宮崎） 第8回 多変量解析①（宮崎） 第9回 多変量解析②（宮崎） 第10回 実験計画法①（竹内） 第11回 実験計画法②（竹内） 第12回 統計解析ソフトを用いたデータ分析①（宮崎） 第13回 統計解析ソフトを用いたデータ分析②（宮崎） 第14回 統計解析ソフトを用いたデータ分析③（竹内） 第15回 まとめ（宮崎）		
評価方法	授業参加度（60%） レポート（40%）		
参考書テキスト等	中野正孝、宮崎有紀子他訳「論文が読める！早わかり統計学」メディカル・サイエンス・インターナショナル（原書 Geoffrey R. Norman, David L. Streiner: PDQ Statistics）		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の研究計画の中で統計手法を用いる場合には、データの検討とともに、その特徴や課題を明確にしておくこと。</li> <li>・関連文献を読み、疑問点などをピックアップしておくこと。</li> </ul>		

科目区分	共通領域分野		
科目名	看護学研究法	英文名	Advanced Research Methods in Nursing and Medical Science
担当者	縄 秀志、田中 聡一、石田 順子、吉田 久美子		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護・医療における研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティックするための視点を学ぶ。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および質的研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。さらに、概念分析やサブストラクシヨンの方法およびアウトカムモデルを用いた介入評価研究の方法について学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護・医療における研究の意義・役割が理解できる。</li> <li>2. 人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティックするための視点を理解できる。</li> <li>3. 実験研究、準実験研究の特徴および研究プロセスが理解できる。</li> <li>4. 調査研究の特徴および研究プロセスを理解できる。</li> <li>5. 尺度開発の特徴および研究プロセスが理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 看護・医療における研究の意義・役割および研究プロセスの概要について（縄） 第2回 研究課題の明確化、研究デザイン、エビデンスについて（縄） 第3回 実験研究・準実験研究とは（田中） 第4回 実験研究・準実験研究における妥当性・信頼性の確保とは（田中） 第5回 調査研究および調査研究における妥当性・信頼性とは（田中） 第6回 尺度開発研究とは（石田） 第7回 尺度開発研究における妥当性・信頼性とは（石田） 第8回 尺度開発研究の実際（石田） 第9回 介入評価研究とは（縄） 第10回 介入評価研究における妥当性・信頼性とは（縄） 第11回 サブストラクシヨンについて（縄） 第12回 質的研究とは（吉田久） 第13回 質的研究における妥当性・信頼性とは（吉田久） 第14回 質的研究の実際（吉田久） 第15回 質的研究の実際（吉田久）		
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	黒田裕子他監訳(2007)：バーンズ&グローブ看護研究入門-実施・評価・活用-。エルゼビア・ジャパン Burns & Grove(2009)：The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence(6th Ed)。ELSER SAUNDERS。野口美和子監訳(2006)：ナースのための質的研究入門。医学書院 査間真美(2007)：質的研究実践ノート。医学書院		
授業外学習の内容	予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨むこと。自分の研究テーマに関する文献のクリティックおよびミニ文献レビューのレポートを提出する。文献検索の方法を熟知していること。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	チーム医療特論	英文名	Team medical care
担当者	池田 優子、浅香 満、山上 徹也、渡邊 秀臣		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	施設から在宅、地域を貫くチーム医療の今日的課題と今後の在り方について検討し、患者・家族の健康問題を協働の力で解決しQOLの向上を目指すためのチーム医療を担う高度専門職の役割と概要について学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療の基本的考え方と今日的課題について理解できる。</li> <li>2. チーム医療を担う高度専門職者の役割について理解できる。</li> <li>3. チーム医療の連携の実際と概要について理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題（渡邊）</li> <li>第2回 チーム医療をめぐる動向と医療専門職に期待される役割（池田）</li> <li>第3回 呼吸リハビリテーションチームの実践を通じたチーム医療の理解（浅香）</li> <li>第4回 地域リハビリテーションにおけるチームの実際（山上）</li> <li>第5回 認知症ケアにおけるチームの実際（山上）</li> <li>第6回 チーム医療の中核を担う中核的存在としての看護師の役割（池田）</li> <li>第7回 看護に求められる調整能力（池田）</li> <li>第8回 チームマネジメント能力育成の課題と実際（池田）</li> </ol>		
評価方法	授業への参加度（40%） レポート課題（60%）		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細田満和子：「チーム医療」の理念と現実―看護に生かす医療社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会</li> <li>2. 井部俊子編：患者は医療チームの一員という考えの実際、日本看護協会出版会</li> </ol>		
授業外学習の内容	チーム医療に関する自己の課題について、レポートを提出する。参加型の対話形式の授業形態を取ることで積極的に参加すること。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	チーム医療アプローチ特別演習	英文名	Seminar on team medical approach
担当者	田中 聡一、吉田 剛、棚橋 さつき		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	患者およびその家族の健康問題を解決、QOLの向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を検討し、チームアプローチ医療の理解を深める。看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど各専門職に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を学習した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 具体的事例に対して自分が中心となって討論ができ、チームアプローチ医療に対するチームの考えを発表できる。</li> <li>2. チームアプローチによる医療の重要性、問題点に対して、事例を提示して、プレゼンターとなって討論し、チームアプローチ医療に対する具体的な解答を発表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 チームアプローチ演習オリエンテーション、チーム医療に関わるもの（棚橋）</li> <li>第2回 事例学習（1）看護師の視線から（棚橋）</li> <li>第3回 事例学習（2）理学療法士の視線から（吉田剛）</li> <li>第4回 事例学習（3）医師の視線から（田中）</li> <li>第5回 事例学習（4）その他、医療専門職種の視線から（吉田剛）</li> <li>第6回 発表準備：ポスター、スライド発表（田中）</li> <li>第7回 発表会と討議：ポスター、スライド発表（田中）</li> <li>第8回 チームアプローチ演習まとめ（田中）</li> </ol>		
評価方法	発表会の成果（40%） 授業参加度・貢献度（60%）		
参考書テキスト等	チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ資料 チームで行う退院支援 入院時から在宅までの医療・ケア連携ガイド(中央法規出版)		
授業外学習の内容	現在話題となっているチームアプローチ医療に関する情報収集を常にしておき、授業で説明できるようにする。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	家族支援特論	英文名	Family Support
担当者	棚橋 さつき、新野 由子、大澤 幸枝、倉林 しのぶ		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	個人の疾病や障害は単に個人の健康が損なわれただけに止まらない。在院日数の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族のあり様の多様化は、健康問題を抱える個人を含む家族の様々な問題を引き起こしている。独居老人の孤独死、老老介護の問題、介護負担、育児放棄や虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいる。ここでは、母子看護学、老年・在宅看護学における家族の抱える問題、倫理的側面から取り上げ、家族支援のあり方について明確にする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母子看護学において家族支援が必要な現象について記述できる。</li> <li>老年・在宅看護学において家族支援が必要な現象について記述できる。</li> <li>1、2の現象について具体的な家族支援のあり方を見出すことができる。</li> <li>倫理的側面から家族支援のあり方について見出すことができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 母子看護学における家族が抱える健康問題（新野）</li> <li>第2回 母子看護学における家族支援のあり方（新野）</li> <li>第3回 家族関係における倫理的問題（倉林）</li> <li>第4回 認知症における家族支援のあり方（大澤）</li> <li>第5回 在宅看護学における家族が抱える健康問題（棚橋）</li> <li>第6回 在宅看護学における家族支援のあり方①（棚橋）</li> <li>第7回 在宅看護学における家族支援のあり方②（棚橋）</li> <li>第8回 まとめ（棚橋）</li> </ol>		
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	適宜資料を配布する。		
授業外学習の内容	家族支援に関する文献や、雑誌等から事前に学習して、講義に臨むこと。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	健康科学特論	英文名	Advanced Health Science
担当者	桑原 敦志、入澤 孝一、角野 善司		
時期・単位	看護学専攻 1年 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構（免疫）の維持、生活習慣病の予防が必須である。栄養については、「医療栄養学特論」において教授するので、本授業では、健康のしくみ、身体活動・運動、心の安静、免疫の健康維持における重要性、生活習慣病予防を科学的根拠に基づき理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康とは何か、健康の概念について理解できる。</li> <li>健康の維持・増進と身体活動・運動との関連性について理解できる。</li> <li>身体的健康と精神的健康の関連性について理解できる。</li> <li>ストレスによる生体反応と健康障害のメカニズムおよび効果的なストレス対処法について理解できる。</li> <li>生体防御と免疫機構について理解できる。</li> <li>生活習慣病について理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 健康科学とは？健康寿命の延伸を目指すために（桑原）</li> <li>第2回 運動と健康及び健康障害－骨粗しょう症予防と筋力トレーニング実技（入澤）</li> <li>第3回 運動と健康及び健康障害－肥満防止のための有酸素トレーニング実技（入澤）</li> <li>第4回 運動と健康及び健康障害－生活習慣病防止のためのトレーニング管理（入澤）</li> <li>第5回 身体活動・運動の評価方法－新体カテスト実技（入澤）</li> <li>第6回 身体的健康と精神的健康の関連性（角野）</li> <li>第7回 身体的健康度の評価方法（角野）</li> <li>第8回 精神的健康度の評価方法（角野）</li> <li>第9回 ストレスと生体反応・健康障害（角野）</li> <li>第10回 ストレス対処行動と評価方法（角野）</li> <li>第11回 生体防御と免疫機構（桑原）</li> <li>第12回 感染症と免疫（桑原）</li> <li>第13回 生活習慣病が招く健康破たんの結果とは（桑原）</li> <li>第14回 生活習慣病予防がもたらす社会的利益（桑原）</li> <li>第15回 食事・運動・ストレスコントロールで健康増進（桑原）</li> </ol>		
評価方法	課題レポート3部（各30%） 授業の積極性（10%）		
参考書テキスト等	参考書：海保博之 監修／小杉正太郎 編『朝倉心理学講座 19 ストレスと健康の心理学』朝倉書店 2006年 3,780円		
授業外学習の内容	健康に関する社会的トピックスを授業でとりあげていくので、あらかじめ詳細を調べておくこと。討論できるように十分に準備すること。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	病態生理学特論	英文名	Advanced Pathophysiology
担当者	田中 聡一、桑原 敦志		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護学は実践を重視することから、看護師は常に患者の側において、患者から発信されるさまざまな情報を最初に受け取ることになる。看護師は患者の身体状況を把握し、適切な診療に結び付けていくために、患者各々の病態を理解し病状に沿った看護を提供するとともに、他の医療者に患者の情報を正確に伝えていく必要がある。病態生理学を学ぶことは、患者の身体状況をより詳しく正確につかみ、診療に役立てることが出来る。	
	到達目標	患者の健康管理・病態把握・病状管理のために必要な理学的所見および病態生理を説明できる。その結果、適切な病態把握と臨床検査の方法、そしてそれを身体所見と結びつけて考え、適切な治療を選択できる。そして、理学的所見や臨床検査学を通じて得られた情報から、病態生理の知識に裏付けて看護を理解出来る。	
当該科目の内容・計画	第1回	病態と臨床検査・尿検査：診察と理学的所見に基づく、治療のための臨床検査（桑原）	
	第2回	血液・生化学検査：病態別に变化する検査項目と、異常値を示すメカニズムと検査法やその誤差について（桑原）	
	第3回	血清・免疫検査：自己抗体や炎症反応、腫瘍マーカーの検査法と異常値を示すメカニズム、誤差について（桑原）	
	第4回	生理機能検査：心電図や肺機能検査など使い方と評価法（桑原）	
	第5回	微生物検査：院内感染防止を目的として知っておくべき検査と使用方法および原因菌と対処法（桑原）	
	第6回	微生物感染症と生体防御機構（桑原）	
	第7回	アレルギー、自己免疫疾患と免疫反応（桑原）	
	第8回	腫瘍と生体防御機構（桑原）	
	第9回	呼吸器系、血液系の生理と疾患およびその病態に応じたケア（田中）	
	第10回	循環器系、腎・泌尿器の生理と疾患およびその病態に応じたケア（田中）	
	第11回	消化器系の生理と疾患およびその病態に応じたケア（田中）	
	第12回	内分泌器系の生理と疾患およびその病態に応じたケア（田中）	
	第13回	神経系の生理と疾患およびその病態に応じたケア（田中）	
	第14回	運動器、感覚器、口腔の生理と疾患およびその病態に応じたケア（田中）	
	第15回	病態生理学まとめ（田中）	
評価方法	授業参加度・貢献度（30%） レポート（70%）		
参考書 テキスト等	「意味づけ」「経験知」でわかる病態生理看護過程(上・下巻)(日総研)		
授業外学習の内容	授業内容が豊富であるから復習が欠かせない。授業のプリントを予習復習すること。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	心理学研究法	英文名	Research Methods in Psychology
担当者	角野 善司、宮内 洋		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	・心理学におけるさまざまな研究法の理論と実際について理解する。 ・心理学研究法の保健医療研究への応用可能性について認識を深める。	
	到達目標	1. 研究目的に応じた心理学的研究法を適切に選択できる。 2. 実験法を用いた心理学的研究を計画し実践できる。 3. 調査法を用いた心理学的研究を計画し実践できる。 4. 検査法を用いた心理学的研究を計画し実践できる。 5. 観察法を用いた心理学的研究を計画し実践できる。	
当該科目の内容・計画	第1回	導入：実証科学としての心理学（角野）	
	第2回	実験法の理論（角野）	
	第3回	実験法の実践（角野）	
	第4回	調査法の理論（角野）	
	第5回	調査法の実践（角野）	
	第6回	検査法の理論（角野）	
	第7回	検査法の実践（角野）	
	第8回	前半のまとめ（角野）	
	第9回	個人における認識枠組の問題（宮内）	
	第10回	質的研究とは何か（1）（宮内）	
	第11回	質的研究とは何か（2）（宮内）	
	第12回	質的研究の構想（宮内）	
	第13回	観察法の理論（宮内）	
	第14回	観察法の実践（宮内）	
	第15回	後半のまとめ（宮内）	
評価方法	授業への参加度およびレポートに基づいて評価する。		
参考書 テキスト等	テキスト： ・高野陽太郎・岡隆（編）『心理学研究法』有斐閣アルマ 2004年 2,205円 ・宮内洋『体験と経験のフィールドワーク』北大路書房 2005年 2,310円 参考書： ・原岡一馬『心理学研究の基礎』ナカニシヤ出版 2002年 2,200円		
授業外学習の内容	実践への参加、データの収集・分析などには、授業時間外にも多くの時間を要することを心して受講してもらいたい。		

科目区分	共通領域分野			
科目名	医療栄養学特論	英文名	Advanced Medical Nutrition	
担当者	竹内 真理			
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位			
当該科目の目的	講義目的	傷病者の為の適切な栄養療法を見極め、治療方針（栄養療法）の提案をする為の知識を身につけること。および栄養食事指導において、傷病者がQOLを損なうことなく栄養療法を実践できる為の知識を身につけることを目的とする。		
	到達目標	臨床現場における傷病者の様々な病態を把握し、疾病に応じた栄養療法を選択できる力を修得する。また、ベッドサイドでの栄養管理を実施し、栄養ケアプランを立案する能力を習得する。さらに、NST活動などのチーム医療においてディレクターやアシスタントディレクターとして活躍できる力を養う。		
当該科目の内容・計画	第1回	栄養評価方法、栄養スクリーニングと栄養アセスメント		
	第2回～第3回	栄養補給量（投与エネルギー、栄養素、水、電解質など）の算定、栄養補給法の選択		
当該科目の内容・計画	第4回～第5回	栄養ケアプランの立案（診断計画、治療計画、教育計画）		
	第6回～第7回	栄養補給の方法（経口栄養補給、経腸栄養補給）、補助食品の使い方		
	第8回	栄養補給の方法（静脈栄養補給）、モニタリングと評価		
	第9回～第10回	栄養アセスメントのチーム医療での活用		
	第11回	病態別栄養管理（内科領域）		
	第12回～第13回	病態別栄養管理（外科領域）、疾患の判定基準と管理目標値		
	第14回	NST活動		
	第15回	まとめ		
	評価方法	授業中の発表や発言内容（50%）、学習意欲（20%）、レポート提出（30%）にて、総合的に評価する。		
	参考書テキスト等	病態栄養専門ガイドブック、NSTガイドブック、日本静脈経腸栄養学会雑誌および日本病態栄養学会雑誌などから抜粋		
授業外学習の内容	・配布資料の指定箇所を事前に目を通し予習しておくこと ・学習した内容を次の講義までに再度確認し、復習しておくこと			

科目区分	共通領域分野		
科目名	薬物動態学特論	英文名	Advanced Biopharmaceutics
担当者	荻原 琢男、荒川 大		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄を理解し、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング（TDM）の意義を学ぶ。さらに、患者ごとの病態や年齢、遺伝子多型、併用薬の違いによる薬物の体内動態要因の変動を理解し、患者ごとの薬物の投与経路、投与量および投与間隔を実際の事例を基に解析・決定する手法を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。</li> <li>2. 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。</li> <li>3. 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。</li> <li>4. 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。</li> <li>5. 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。</li> <li>6. 薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回	薬物の生体内運命を理解するための、薬物動態学の意義を学ぶ。（荻原）	
	第2回～第3回	薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について理解する。（荻原）	
	第4回～第5回	薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）を理解する。（荻原）	
	第6回～第7回	薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する。（荒川）	
	第8回	医薬品の添付文書に記載されている事項を、実例を通じて理解する。（荻原）	
	第9回～第10回	薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について、実際の事例を通じて理解する。（演習形式）（荒川）	
	第11回	薬物動態パラメータの算出方法とその意味について理解する。（荻原）	
	第12回～第13回	薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する。（演習形式）（荒川）	
	第14回	薬物動態学の最近のトピックス（外部講師）	
	第15回	薬物動態学特論のまとめ（荻原）	
評価方法	複数回の症例レポート（50%）と期末試験（50%）によって、薬物動態学の総合的な理解度を測る。		
参考書テキスト等	「エピソード薬物動態学」辻彰 京都廣川書店 「薬物速度論演習」 京都廣川書店		
授業外学習の内容	配布資料は1回目の授業の際にすべて冊子にして配布するので、予習・復習の履行を望む。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	医療倫理学特論	英文名	Advanced Medical Ethics
担当者	倉林 しのぶ、大石 桂子		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	「生殖医療」「脳死」「臓器移植」など、近年の医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけにとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について、具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献講読やグループディスカッションを通して、「医療を行う側」と「医療を受ける側」それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療を支える人間と生についての基本的な理念を理解できる</li> <li>2. 現代医療の倫理的問題について、正確な知識と多角的な視野をもつことができる</li> <li>3. 看護師が臨床で直面する倫理的問題を理解できる</li> <li>4. 看護師、医師、患者、家族それぞれの価値観の違いを理解できる</li> <li>5. 倫理的問題の背景を理解しながら、問題解決に向けた方策を検討できる</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回 医療と意志決定(1) 自律的な生の意義とは(大石) 第 2 回 医療と意志決定(2) 意志決定支援の取り組み(大石) 第 3 回 子どもの権利 生殖医療と治療停止(大石) 第 4 回 エンハンスメント(1) 「より良い生」を求める技術(大石) 第 5 回 エンハンスメント(2) 「人間の弱さ」に価値はあるか(大石) 第 6 回 東西の死生観(1) 病気と死の受け入れ(大石) 第 7 回 東西の死生観(2) 脳死臓器移植にみる生と死の意味づけ(大石) 第 8 回 看護師の倫理(1) 看護倫理綱領と倫理的徳(よい看護師とは何か)(倉林) 第 9 回 看護師の倫理(2) 倫理のアプローチ(看護倫理の原則)(倉林) 第 10 回 事例検討(1) インフォームド・コンセント・看護師の役割(倉林) 第 11 回 事例検討(2) 自律と自己決定(医療者と患者)(倉林) 第 12 回 事例検討(3) 自律と自己決定(患者と家族)(倉林) 第 13 回 事例検討(4) アドボカシー・看護師の役割(倉林) 第 14 回 事例検討(5) 看護師の倫理的ジレンマ(倉林) 第 15 回 まとめ(倉林)		
評価方法	レポート(30%)、授業参加度・授業貢献度(70%)		
参考書 テキスト等	参考書・参考文献 『生命と医療の倫理』伊藤道哉、丸善株式会社 『エンハンスメント論争—身体・精神の増強と先端科学技術—』上田昌文ほか、社会評論社 『日本人の死—日本的死生観への視角—』伊藤益、北樹出版 『臨床倫理学入門』福井次矢編、医学書院、 『看護倫理1~3』Dolores Dooleyほか、みすず書房		
授業外学習の内容	・グループディスカッションには積極的に参加すること。 ・事例検討については、事前に文献等を配布しますので、事前によく読み自分なりの考えを持って講義に参加すること。		

科目区分	共通領域科目		
科目名	症状マネジメント特論	英文名	Symptom Management
担当者	縄 秀志、田中 聡一、桑原 敦志		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護実践における代表的な症状(呼吸困難、胸痛・動悸、嘔気・嘔吐、便秘・下痢、尿失禁、意識障害、知覚障害、運動麻痺、言語障害、嚥下困難など)をマネジメントするために必要な身体所見を得る方法としてのフィジカルアセスメントの知識と技術および、症状のメカニズム(病態生理)について学ぶ。また、UCLAが開発した症状マネジメント理論を学び、看護実践においてマネジメントが困難であるいくつかの事例をもとに、独創的な症状マネジメント方略を探求する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な症状(呼吸困難、胸痛・動悸、嘔気・嘔吐、便秘・下痢、尿失禁、意識障害、知覚障害、運動麻痺、言語障害、嚥下困難など)をマネジメントするために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について理解できる。</li> <li>2. 代表的な症状のメカニズム(病態生理)について理解できる。</li> <li>3. UCLAが開発した症状マネジメント理論を理解できる。</li> <li>4. 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を作成し、症状マネジメント理論を用いて独創的な症状マネジメント方略を作成することができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回 UCLAが開発した症状マネジメント理論について理解する。(縄) 第 2 回 内分泌系疾患:甲状腺疾患、糖尿病を中心に症状と合併症、対処法について理解する。(桑原) 第 3 回 消化器系疾患: 上部下部消化管、肝臓を中心に症状と合併症、対処法について理解する。(桑原) 第 4 回 呼吸器系疾患: 気管支喘息、肺結核を中心に症状と合併症、対処法について理解する。(桑原) 第 5 回 泌尿器系疾患: 腎の酸塩基平衡、血圧調節について理解し、腎尿路系疾患の症状と合併症、対処法について理解する。(桑原) 第 6 回 循環器系: 心臓系、血管系を中心に症候および症状が診られるようにする。(田中) 第 7 回 循環器系疾患: 疾患特有の症候および症状マネジメント術を学習する。(田中) 第 8 回 神経系: 中枢神経系、末梢神経系、自律神経系が順序立てて診られるようにする。(田中) 第 9 回 神経系疾患: 疾患特有の症候および症状マネジメント術を学習する。(田中) 第 10 回 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を作成し、発表する。(縄) 第 11 回 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を作成し、発表する。(縄) 第 12 回 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を作成し、発表する。(縄) 第 13 回 作成した事例に症状マネジメント理論を適用し、発表する。(縄) 第 14 回 作成した事例に症状マネジメント理論を適用し、発表する。(縄) 第 15 回 作成した事例に症状マネジメント理論を適用し、発表する。(縄)		
評価方法	プレゼンテーション(30%) レポート(70%)		
参考書 テキスト等	田村恵子(2002):がん患者の症状マネジメント. 学習研究社 「意味づけ」「経験知」でわかる病態生理看護過程(上・下巻)(日総研)		
授業外学習の内容	症状マネジメントが困難である事例を作成し、症状マネジメント理論を適用し、レポートとして提出する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。病態生理学特論を履修していることが望ましい。		

科目区分	共通領域分野		
科目名	災害医療特論	英文名	Disaster Medical Care
担当者			
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	災害に対する基礎的知識を踏まえて、災害時における人間の行動の基盤を学び、災害が人々の健康や生活に与える影響、そして災害看護の対象である被災者の健康問題や心の問題について探求する。また、災害時における医療チーム活動について学び、被災者特性に応じた災害医療活動に必要な知識・判断力・技術・行動力を習得するべく災害医療活動の現状と課題について教授する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>今日の災害看護活動から捉えた現状と課題について理解することができる。</li> <li>被災者特性に応じた災害看護活動に必要な知識・判断力・技術・行動力を習得することができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 オリエンテーション 第2回 災害の概念 第3回 災害が人々の健康や生活に与える影響 第4回 被災者の特性 第5回 人権憲章とスフィアプロジェクト 第6回 災害医療マネジメント 第7回 災害と法律 第8回 災害時の感染コントロール 第9回 災害医療の実際：東日本大震災における救援活動 第10回 災害医療における連携 第11回 災害時の精神保健 第12回 地域防災 第13回 初動体制 第14回 トリアージ 第15回 搬送法と包帯法		
評価方法	研究テーマへの取り組み姿勢やレポートの提出などで総合的に評価する。 ・講義内でのディスカッション、プレゼンテーション、通常授業中でのコメントなどへの評価（50%） ・学期末に課すレポートによる評価50%とする。		
参考書テキスト等	特に使用せず、資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義内で紹介する。		
授業外学習の内容	講義内容に即して課題を提示するので、文献検索を現時点でのエビデンスを踏まえて、災害医療の課題と展望について発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションは積極的に参加すること。		

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学 I		
科目名	クリティカルケア看護学特論	英文名	Advanced Critical Care Nursing
担当者	縄 秀志、千明 政好、片貝 智恵		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	急性期看護、クリティカルケア看護において重要な概念や理論について、具体的な現象（患者の全身管理、日常生活ケアや苦痛緩和に対するケア、心理的・教育的ケア）から捉える。また、急激な生命の危機状態にある患者・家族の反応を理解し、ストレスや葛藤を抱く中で自己決定権の尊重や患者としての権利を尊重し、健康レベルを高め、QOLの向上を目指すための看護実践方法および看護実践の課題について探求する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>クリティカルケア看護学・急性期看護学における重要な概念・理論について実際の現象から理解できる。</li> <li>急性期看護・クリティカル看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回～第2回 急性期看護・クリティカルケア看護領域の患者・家族の反応について／ストレスコーピング理論（縄） 第3回～第4回 急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について／ケアリング理論（縄） 第5回～第6回 急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について／症状マネジメント理論（縄） 第7回～第8回 急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について／Comfort理論（縄） 第9回 ICU/CCUにおける患者の身体的・心理的反応の特徴について（片貝） 第10回～第11回 ICU/CCUにおける全身管理および日常生活ケアの実際と課題について（片貝） 第12回 ICU/CCUにおける患者の苦痛症状および苦痛緩和ケアについて（千明） 第13回～第14回 ICU/CCUにおける患者と家族の権利および自己決定を支えるための看護の実際と課題について（千明） 第15回 急性期看護・クリティカルケア看護領域における看護実践課題についての発表（千明）		
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績、医学書院 日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する。		
授業外学習の内容	自分の具体的な経験を元に患者・家族の反応および看護実践の課題について検討し、発表し、レポートを作成する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学 I																										
科目名	がん看護学特論	英文名	Advanced Cancer Nursing																								
担当者	吉田 久美子、石田 順子、砂賀 道子、神田 清子、二渡 玉江、岩崎 紀久子																										
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位																										
当該科目の目的	講義目的	成人期におけるがんが患者と家族にもたらす反応、患者の健康、患者と家族のQOLの向上を目指した看護実践のあり方について、がん看護において重要な概念や理論を用いて理解する。がんの告知と治療選択における意思決定を支える看護、手術療法や化学療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。																									
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん看護における重要な概念・理論について実際の現象から理解できる。</li> <li>2. がん看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。</li> </ol>																									
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>がん看護学の動向について（吉田）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>がん看護学の基盤となる理論について（吉田）</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>がん看護学の基盤となる理論について（石田）</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>がん看護学における倫理的課題と看護の役割について（神田）</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>がんの治療選択における意思決定を支える看護について（石田）</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>化学療法を受ける患者の症状マネジメント／セルフケアについて（吉田）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／危機理論（二渡）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／適応理論（砂賀）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>手術を受けるがん患者・家族を支える看護の実際と課題について（砂賀）</td></tr> <tr><td>第10回～第11回</td><td>治療を受けるがん患者を支える家族への看護について（石田）</td></tr> <tr><td>第12回～第13回</td><td>終末期にある患者および家族の全人的苦痛について（岩崎）</td></tr> <tr><td>第14回～第15回</td><td>その人らしく安らかな死を迎えるための緩和ケアの実際と課題について（吉田）</td></tr> </table>			第1回	がん看護学の動向について（吉田）	第2回	がん看護学の基盤となる理論について（吉田）	第3回	がん看護学の基盤となる理論について（石田）	第4回	がん看護学における倫理的課題と看護の役割について（神田）	第5回	がんの治療選択における意思決定を支える看護について（石田）	第6回	化学療法を受ける患者の症状マネジメント／セルフケアについて（吉田）	第7回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／危機理論（二渡）	第8回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／適応理論（砂賀）	第9回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護の実際と課題について（砂賀）	第10回～第11回	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について（石田）	第12回～第13回	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について（岩崎）	第14回～第15回	その人らしく安らかな死を迎えるための緩和ケアの実際と課題について（吉田）
第1回	がん看護学の動向について（吉田）																										
第2回	がん看護学の基盤となる理論について（吉田）																										
第3回	がん看護学の基盤となる理論について（石田）																										
第4回	がん看護学における倫理的課題と看護の役割について（神田）																										
第5回	がんの治療選択における意思決定を支える看護について（石田）																										
第6回	化学療法を受ける患者の症状マネジメント／セルフケアについて（吉田）																										
第7回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／危機理論（二渡）																										
第8回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について／適応理論（砂賀）																										
第9回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護の実際と課題について（砂賀）																										
第10回～第11回	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について（石田）																										
第12回～第13回	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について（岩崎）																										
第14回～第15回	その人らしく安らかな死を迎えるための緩和ケアの実際と課題について（吉田）																										
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）																										
参考書 テキスト等	都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績．医学書院 日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌から論文を紹介する。																										
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 具体的な経験を元に患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料をよく読んでおくこと。</li> <li>2. 対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。</li> </ol>																										

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学 I																																
科目名	老年看護学特論	英文名	Advanced Gerontological Nursing																														
担当者	棚橋 さつき、大澤 幸枝、田中 聡一、角野 善司、吉田 久美子、石田 順子、吉田 剛、山上 徹也、斉田 綾子																																
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位																																
当該科目の目的	講義目的	高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメント、生活の自立とQOLの向上を目指した保健・医療・福祉における高齢者の支援やケアマネジメントおよび家族看護などの効果的な看護実践の方法を学ぶ。また、高齢社会における老年看護の専門的な機能と役割を教授し、チーム医療を担う老年看護課題について考察する。																															
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメントが理解できる</li> <li>2. 生活の自立とQOLの向上を目指した高齢者の支援やケアマネジメントが理解できる</li> <li>3. 家族に対する効果的な看護支援が理解できる</li> <li>4. 高齢社会における専門的な機能と役割が理解できる</li> <li>5. チーム医療を担う老年看護専門職としての課題を見出すことができる</li> </ol>																															
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>高齢者ケアと制度の変遷（1）高齢者保健福祉医療制度の変遷（棚橋）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>高齢者ケアと制度の変遷（2）高齢者保健福祉医療制度の課題（棚橋）</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病①（田中）</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病②（田中）</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>高齢者の心理・社会的特徴①（角野）</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>高齢者の心理・社会的特徴②（角野）</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>高齢者の生活機能とQOL（吉田剛）</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>高齢者の健康増進活動（山上）</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>認知症ケアの理論と実際①（大澤）</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>認知症ケアの理論と実際②（大澤）</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>高齢者とがん看護①（吉田久）</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>高齢者とがん看護②（石田）</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>在宅看護における高齢者ケアの理論と実際（棚橋）</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際（老人看護CNS）（斎田）</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>高齢者看護の課題（大澤）</td></tr> </table>			第1回	高齢者ケアと制度の変遷（1）高齢者保健福祉医療制度の変遷（棚橋）	第2回	高齢者ケアと制度の変遷（2）高齢者保健福祉医療制度の課題（棚橋）	第3回	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病①（田中）	第4回	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病②（田中）	第5回	高齢者の心理・社会的特徴①（角野）	第6回	高齢者の心理・社会的特徴②（角野）	第7回	高齢者の生活機能とQOL（吉田剛）	第8回	高齢者の健康増進活動（山上）	第9回	認知症ケアの理論と実際①（大澤）	第10回	認知症ケアの理論と実際②（大澤）	第11回	高齢者とがん看護①（吉田久）	第12回	高齢者とがん看護②（石田）	第13回	在宅看護における高齢者ケアの理論と実際（棚橋）	第14回	高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際（老人看護CNS）（斎田）	第15回	高齢者看護の課題（大澤）
第1回	高齢者ケアと制度の変遷（1）高齢者保健福祉医療制度の変遷（棚橋）																																
第2回	高齢者ケアと制度の変遷（2）高齢者保健福祉医療制度の課題（棚橋）																																
第3回	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病①（田中）																																
第4回	老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病②（田中）																																
第5回	高齢者の心理・社会的特徴①（角野）																																
第6回	高齢者の心理・社会的特徴②（角野）																																
第7回	高齢者の生活機能とQOL（吉田剛）																																
第8回	高齢者の健康増進活動（山上）																																
第9回	認知症ケアの理論と実際①（大澤）																																
第10回	認知症ケアの理論と実際②（大澤）																																
第11回	高齢者とがん看護①（吉田久）																																
第12回	高齢者とがん看護②（石田）																																
第13回	在宅看護における高齢者ケアの理論と実際（棚橋）																																
第14回	高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際（老人看護CNS）（斎田）																																
第15回	高齢者看護の課題（大澤）																																
評価方法	レポート80%、授業参加度20%を基準として、総合的に評価する																																
参考書 テキスト等	中嶋紀恵子：老年看護学．日本看護協会出版会 道場信孝：臨床老年医学入門；すべてのヘルスケアプロフェッショナルのために．医学書院 橋本肇：高齢者の医療の倫理．中央出版																																
授業外学習の内容	老年看護に関するトピックスなどをあらかじめ時間外に学習しておくこと。																																

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学 I		
科目名	母子看護学特論	英文名	Advanced Maternal & Child Nursing
担当者	新野 由子、櫻井 美和		
時期・単位	看護学専攻 1 年次 前期 選択 2 単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学の対象となる母性、子どもと家族の健康問題を対象を取り巻く環境を踏まえて最近の研究の動向から考察する。具体的には、ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達過程とその過程を支援する看護の役割、周産期における母性とその家族への支援、地域のサポート体制の構築を教授する。また、子どもの権利を尊重した人格を持った主体としての子ども観にたち、子どもの成長発達を理解するための理論、健康障害を持つ子どもと家族に対する看護のあり方を教授する。そして、母子看護学分野における看護師の役割や特性、倫理的問題について探求し、今後の課題を明確にする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母子看護の対象である母性、子どもと家族を適切に理解するために必要な理論を説明できる。</li> <li>ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達過程を支援する看護の役割を理解できる。</li> <li>子どもの成長・発達とそれに影響を与える環境について理解できる。</li> <li>健康障害をもつ子どもと家族に対する看護の役割を考察できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回～第 2 回	母子看護を支える理論：母子相互作用、母性役割理論、危機理論、家族システム理論、ソーシャルサポート理論など（新野）	
	第 3 回～第 8 回	ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達と起こりやすい健康問題、それらを支援する看護の役割について理解する。（新野）	
	第 9 回	子どもの成長発達に関する理論を理解できる。（櫻井）	
	第 10 回～第 12 回	健康障害を持つ慢性疾患や障害をもつ子どもに対する看護のあり方を理解する。（櫻井）	
	第 13 回～第 14 回	女性や子どもの権利と看護行為について、最近の研究の動向から分析・考察を深め、倫理的な問題から今後の課題を見出す。（櫻井）	
	第 15 回	母性や子どもに接する看護師の役割や特性について探求し、今後の課題を見出す。（新野、櫻井）	
評価方法	授業の参加度度・貢献度（50%） レポート（50%）		
参考書 テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) レズリー・ページ. 新助産学. メディカ出版</li> <li>2) 森山美和子. ファミリーナーシングプラクティス. 医学書院</li> <li>3) 中野 綾美. ナーシング・グラフィカ28 小児の発達と看護, メディカ出版</li> <li>4) Lynn S. Baker. 訳 細谷亮太. 君と白血病. 医学書院</li> </ol>		
授業外学習の内容	予習を行い、講義に積極的に参加すること。		

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学 I		
科目名	精神看護学特論	英文名	Advanced Psychiatric Nursing
担当者	田邊 要補		
時期・単位	看護学専攻 1 年次 前期 選択 2 単位		
当該科目の目的	講義目的	精神保健福祉の動向をふまえ、精神看護についての現状と今後の課題を考察する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉の歴史の変遷をふまえ、精神保健福祉制度を理解できる。</li> <li>2. 精神看護領域で用いられる諸理論・方法論を理解できる</li> <li>3. 精神看護における課題を理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回	オリエンテーション	
	第 2 回	精神医療・看護の歴史の変遷	
	第 3 回	精神保健福祉の動向	
	第 4 回	精神保健福祉対策	
	第 5 回	精神障がい者・家族のサポートシステム	
	第 6 回～第 7 回	地域生活を支える援助	
	第 8 回	病院と地域の連携	
	第 9 回	対人関係理論	
	第 10 回	セルフケアに関する看護理論	
	第 11 回	家族に関する理論と家族の機能	
	第 12 回	疾患・治療に関する理論	
	第 13 回	精神看護の新しい動き	
	第 14 回～第 15 回	グループワーク	
	評価方法	プレゼンテーション（30%） ディスカッション（20%） レポート（50%）	
参考書 テキスト等	原著)大熊輝雄 編集)「現代臨床精神医学」第12版改訂委員会 現代臨床精神医学(第12版)金原出版 日本精神保健看護学会誌 日本精神科看護学会誌 その他適宜紹介する		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考書・テキストは講義前によく読み、予習をしておくこと</li> <li>・講義は対話形式で行う、問題意識をもち積極的に発言すること</li> </ul>		

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学Ⅱ		
科目名	在宅看護学特論	英文名	Advanced Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	在宅看護に関連する医療施設や地域における療養者の現状と課題について理解するために、在宅で多い療養者の事例を通して学ぶ。また、在宅療養支援における看護のあり方などから自己の課題を理解する。	
	到達目標	各自の経験事例を含めた訪問看護事例検討（高齢者、ターミナル、小児、難病等）により、高度訪問看護実践に必要な能力についての知識、理解を深める。 また、在宅看護に関連する保健医療福祉の諸制度（介護保険、医療保険、特定疾病研究事業等）やケアシステムについて理解する。	
当該科目の内容・計画	第1回 在宅看護の理念と概念 第2回～第3回 在宅療養を支える諸制度の理解 第4回～第5回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討（高齢者） 第6回～第7回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討（ターミナル） 第8回～第9回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討（小児） 第10回～第11回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討（難病） 第12回～第13回 在宅における家族看護論 第14回 保健医療福祉の協働：チームアプローチ 第15回 在宅看護の展望と課題		
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や事例素材の準備、プレゼンテーションにより総合的に判断する。 事例検討成果・レポート（60%） 授業参加態度・貢献度（40%）		
参考書テキスト等	日本難病看護学会誌 日本在宅ケア学会誌 見藤隆子他著：看護師職者のための政策過程入門 その他適宜指示する		
授業外学習の内容	事例に関しては、事前学習をしてから臨んでほしい。		

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学Ⅱ		
科目名	看護管理学特論	英文名	Advanced Nursing Administration Settings
担当者	池田 優子、棚橋 さつき、野本 悦子、木村 憲洋		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	医療を巡る変化の中で、病院から在宅まで、一貫した看護の質を保証するためのチーム医療の推進とそれを中核で担う看護者のマネジメント能力育成の課題について探求する。病院組織や訪問看護ステーションにおける看護管理に必要な諸理論の理解と管理運営方法について理解し、地域における連携の課題と必要性について学ぶ。	
	到達目標	1. 看護管理の基盤となる理論について理解できる。 2. マネジメントに必要な対人関係調整能力の概要を理解できる。 3. 病院および訪問看護事業所における看護管理・経営の特徴について理解できる。 4. 自己の経験を生かし看護管理上の課題と今後の方向性を探求することができる。 5. 病院と在宅との連携の事例を通して、問題と課題を明確化し、チーム医療のあり方について理解する。	
当該科目の内容・計画	第1回 看護管理の基盤となる理論について（池田） 第2回 組織とマネジメント（池田） 第3回 リーダーシップとマネジメント（池田） 第4回 マネジメントに必要な対人関係調整能力（池田） 第5回 医療者間に必要なコミュニケーションスキル（池田） 第6回 アサーティブネスの理論と実際（池田） 第7回 人材育成とコーチング（池田） 第8回 管理者のストレスマネジメント（池田） 第9回 病院経営と医療（木村） 第10回 病院経営収益管理（木村） 第11回 看護の病院経営参画について（野本） 第12回 看護管理とリスマネジメント（野本） 第13回 看護専門外来の構築と運営（野本） 第14回 病院と在宅との連携について（棚橋） 第15回 在宅看護の経営・管理の課題と展望（棚橋）		
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。		
参考書テキスト等	1. 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト 全8巻 日本看護協会出版会 2. Peter.F.Drucher：Management Taska, Responsibilities, Practices, 上田惇生訳、マネジメント基本と原則、ダイヤモンド社 3. P. Hersey, K. H. Blunckard, D. E. Johnson: Management of Organizational Behavior: Utilizing Human Resources. 山本成二、山本あずさ訳、入門から応用へ 行動科学の展開、(新版) 人的資源の活用、生産性出版 4. Edger. H. Schein, Career Dynamics：二村俊子・三善勝代訳、キャリア・ダイナミクス、白桃書房 5. Richard. S. Lazarus&Susan Folkman, Stress, Appraisal, and Coping：本明寛 春木豊 小田正美監訳、ストレスの心理学 認知的評価と対処の研究、実務教育出版		
授業外学習の内容	自己の現場における経験の中から管理にかかわる課題を明確化し、レポートにして発表する。それぞれの課題について看護管理を巡る文献を熟読し、照らし合わせながら討議に積極的に参加してほしい。		

科目区分	臨床看護学分野 臨床看護学共通科目 臨床看護学Ⅱ		
科目名	地域看護学特論	英文名	Advanced Lecture on Community Health Nursing
担当者	宮崎 有紀子、倉林 しのぶ		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	地域の健康水準向上にかかわる看護の理論と方法について、対象別の実践方法、および保健医療福祉の連携とシステム化といった側面から教授する。公衆衛生や健康の概念、地域で生活する人々を中心とした個人・家族・集団に対する看護活動のあり方、地域の健康問題の解決のための社会資源の開発と施策への反映について、地域看護活動の実践事例を基に考察する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の概念について理解できる</li> <li>2. 地域で生活する個人・家族・集団に対する看護活動のあり方について考察を深めることができる。</li> <li>3. 地域の健康問題解決のための社会資源や施策について考察できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション（宮崎）</li> <li>第2回 公衆衛生看護の概念（宮崎）</li> <li>第3回 地域看護学の歴史と保健師の役割（宮崎）</li> <li>第4回 地域の健康指標（宮崎）</li> <li>第5回 地域の特性の把握（宮崎）</li> <li>第6回 地域における保健医療福祉の連携とシステム化①（倉林）</li> <li>第7回 地域における保健医療福祉の連携とシステム化②（倉林）</li> <li>第8回 健康危機管理（宮崎）</li> <li>第9回 地域保健活動の評価方法（宮崎）</li> <li>第10回 在宅療養者への支援（倉林）</li> <li>第11回 社会資源と地域ケアシステム①（倉林）</li> <li>第12回 社会資源と地域ケアシステム②（倉林）</li> <li>第13回 家族支援（倉林）</li> <li>第14回 地域看護活動における倫理的側面（倉林）</li> <li>第15回 まとめ（宮崎）</li> </ol>		
評価方法	授業参加度（50%） レポート（50%）		
参考書 テキスト等	金川克子ほか訳「コミュニティズパートナー」医学書院 「保健師ジャーナル」「公衆衛生」「公衆衛生情報」等の雑誌		
授業外学習の内容	関連する文献の検索、検討を各自で行うこと		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ:Advanced Critical Care Nursing
担当者	縄 秀志、千明 政好		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述し、その現象をケアリング理論、ストレスコーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort理論から捉え直し、対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述できる。</li> <li>2. 記述した現象をケアリング理論、ストレスコーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort理論から捉え直すことができる。</li> <li>3. クリティカルケアにおける対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題について</li> <li>第2回～第4回 クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述する。</li> <li>第5回～第8回 記述した現象についてケアリング理論、ストレスコーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort理論などを用いて分析する。</li> <li>第9回～第12回 記述した現象の中心的テーマについて文献レビューを行い、現時点でのエビデンスをまとめる。</li> <li>第13回～第15回 記述した現象を元にクリティカルケアにおける対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化し、発表する。</li> </ol>		
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書 テキスト等	卯野木健監訳(2007): AACNクリティカルケア看護マニュアル第5版. エルゼビア・ジャパン. 日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、聖路加看護学会誌から論文を紹介する		
授業外学習の内容	臨床看護学特論Ⅰ、Ⅱでの学びを元にクリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践の課題について明確化し、発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。文献検索について熟知していること。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ:Advanced Critical Care Nursing
担当者	縄 秀志、千明 政好		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅰで明確にしたクリティカルケアの看護実践における課題を解決する方法について文献検討およびディスカッションから導き出し、実践に適用できるアセスメント方法や看護介入プログラムを作成する。看護介入プログラムを作成した場合には、介入の効果を判断する効果指標も作成する。加えて、アセスメント方法や看護介入プログラムを実践で用いるためにチーム医療を担う多職種と連携する方法論を検討する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアの看護実践の課題の解決方法について文献検討から導き出せる。</li> <li>2. 実践課題を解決するためのアセスメント方法や看護介入プログラムを作成できる。</li> <li>3. 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実践への適用について検討できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 第2回～第8回 第9回～第15回 第16回～第22回	<p>クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題解決について</p> <p>クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題解決の方法について文献検討から導き出し、発表する。</p> <p>文献検討を元に課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表する。看護介入プログラムを作成した場合には、介入の効果を判断する効果指標も作成する。</p> <p>作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実践への適用について検討し、修正し、発表する。</p>	
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書テキスト等	日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌から論文を紹介する		
授業外学習の内容	演習Ⅰで明確化した課題について、文献検討を元に実践に適用できる課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	クリティカルケア看護学実習	英文名	Clinical Practice: Advanced Critical Care Nursing
担当者	縄 秀志		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを実践の場で実施し、アセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標についての問題点・修正点や他職種と連携するための問題点を抽出する。そして、実践に適用できるようにアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標の修正を行う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを実践の場で実施できる。</li> <li>2. 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標についての実践適用における問題点を明らかにし、実践に適用できるように修正できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	2年次4月から5月に開講する 第1日目 第2日目～6日目 第7日目～10日目 第11日目 第12日目～17日目 第18日目～21日目	<p>病棟実習：作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを実施する対象を選定し、実習のICを行なう。</p> <p>病棟実習：作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを実施し、効果についての情報収集を行なう。</p> <p>学内実習：作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実施および効果についての情報収集を元に事例をまとめ、実践適用における問題点を明らかにする。</p> <p>学内実習：実践適用における問題点を踏まえて、作成したアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標の修正を行なう。</p> <p>病棟実習：修正したアセスメント方法や看護介入プログラムを実施する対象を選定し、実習のICを行なう。</p> <p>病棟実習：修正したアセスメント方法や看護介入プログラムを実施し、効果についての情報収集を行なう。</p> <p>学内実習：作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実施および効果について事例をまとめ、特別研究で用いるアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を確定する。</p>	
評価方法	実習内容 (50%) レポート (50%)		
参考書テキスト等	特に指定しない		
授業外学習の内容	演習Ⅱで作成したアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を実践で実施し、事例をまとめ、特別研究で用いるアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を確定する。		

科目区分		臨床看護学分野	自立支援看護学専門科目	自立支援看護学領域												
科目名	がん看護学演習 I	英文名	Nursing supports for self-care II: Seminar of Cancer Nursing I													
担当者	石田 順子、吉田 久美子、砂賀 道子															
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位															
当該科目の目的	講義目的	がん患者の特徴と看護の概要を経過別にとらえ、先行研究の結果と関連づける。また看護を探究するためにセルフケア理論、ストレス-コーピング理論、家族看護学の理論、緩和ケアなどの理論を活用しながら対象の生活の質(QOL)を高めるための看護の課題を、チーム医療の中の看護師の役割を踏まえ明確化する。														
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん患者及びその家族の特徴について述べるができる。</li> <li>2. がん患者およびその家族の特徴と援助について理論や概念を適用することにより科学的に理解し述べるができる。</li> <li>3. がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連について説明できる。</li> <li>4. チーム医療の中の看護師の役割をふまえ、がん看護の臨床的課題の概要について説明できる。</li> </ol>														
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>がん看護における患者・家族の課題の探索 (吉田久)</td> </tr> <tr> <td>第 2 回～第 5 回 (第 2 回) (第 3 回) (第 4 回) (第 5 回)</td> <td>がん患者とその家族の課題のアセスメント ①告知時から手術終了までのがん患者・家族の課題 (石田) ②化学療法を受けるがん患者・家族の課題 (石田) ③放射線療法を受けるがん患者・家族の課題 (吉田久) ④終末期におけるがん患者・家族の課題 (吉田久)</td> </tr> <tr> <td>第 6 回～第 8 回 (第 6 回) (第 7 回) (第 8 回)</td> <td>看護研究におけるがん看護学で活用されやすい理論や概念の活用 ①ストレス-コーピング理論等 (砂賀) ②セルフケア理論、スピリチュアルペインに関する理論等 (吉田久) ③家族看護学の理論等 (石田)</td> </tr> <tr> <td>第 9 回～第 10 回</td> <td>がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連 (吉田久)</td> </tr> <tr> <td>第 11 回～第 12 回</td> <td>がん看護における中心的な実践課題の文献レビューを行い課題を明確化 (砂賀)</td> </tr> <tr> <td>第 13 回～第 15 回</td> <td>チーム医療におけるがん看護の役割について、明確になった課題の発表 (石田)</td> </tr> </table>				第 1 回	がん看護における患者・家族の課題の探索 (吉田久)	第 2 回～第 5 回 (第 2 回) (第 3 回) (第 4 回) (第 5 回)	がん患者とその家族の課題のアセスメント ①告知時から手術終了までのがん患者・家族の課題 (石田) ②化学療法を受けるがん患者・家族の課題 (石田) ③放射線療法を受けるがん患者・家族の課題 (吉田久) ④終末期におけるがん患者・家族の課題 (吉田久)	第 6 回～第 8 回 (第 6 回) (第 7 回) (第 8 回)	看護研究におけるがん看護学で活用されやすい理論や概念の活用 ①ストレス-コーピング理論等 (砂賀) ②セルフケア理論、スピリチュアルペインに関する理論等 (吉田久) ③家族看護学の理論等 (石田)	第 9 回～第 10 回	がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連 (吉田久)	第 11 回～第 12 回	がん看護における中心的な実践課題の文献レビューを行い課題を明確化 (砂賀)	第 13 回～第 15 回	チーム医療におけるがん看護の役割について、明確になった課題の発表 (石田)
第 1 回	がん看護における患者・家族の課題の探索 (吉田久)															
第 2 回～第 5 回 (第 2 回) (第 3 回) (第 4 回) (第 5 回)	がん患者とその家族の課題のアセスメント ①告知時から手術終了までのがん患者・家族の課題 (石田) ②化学療法を受けるがん患者・家族の課題 (石田) ③放射線療法を受けるがん患者・家族の課題 (吉田久) ④終末期におけるがん患者・家族の課題 (吉田久)															
第 6 回～第 8 回 (第 6 回) (第 7 回) (第 8 回)	看護研究におけるがん看護学で活用されやすい理論や概念の活用 ①ストレス-コーピング理論等 (砂賀) ②セルフケア理論、スピリチュアルペインに関する理論等 (吉田久) ③家族看護学の理論等 (石田)															
第 9 回～第 10 回	がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連 (吉田久)															
第 11 回～第 12 回	がん看護における中心的な実践課題の文献レビューを行い課題を明確化 (砂賀)															
第 13 回～第 15 回	チーム医療におけるがん看護の役割について、明確になった課題の発表 (石田)															
評価方法	授業への参加状況・プレゼンテーション (30%) レポート (70%)															
参考書テキスト等	参考文献 ・がん看護コアカリキュラム、医学書院 ・D.Fボーリット、B.P.ハングレー著、近藤潤子訳、看護研究 原理と方法、医学書院 ・Nancy Burns, SuzanK.Grove著、黒田裕子他訳、看護研究入門、エルゼビア・ジャパン ・日本看護科学学会学会誌や日本がん看護学会誌を活用する															
授業外学習の内容	がん患者の看護に活用されやすい理論や、理論を用いた先行研究について事前に購読し授業に臨むこと。															

科目区分		臨床看護学分野	自立支援看護学専門科目	自立支援看護学領域										
科目名	がん看護学演習 II	英文名	Nursing supports for self-care II: Seminar of Cancer Nursing II											
担当者	石田 順子、吉田 久美子、砂賀 道子													
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位													
当該科目の目的	講義目的	告知時から終末期にあるがん患者と家族を対象に、演習 I で学習したがん看護学で活用されやすい理論と看護の役割に対する理解のもとに、必要かつ優先度の高い看護研究のテーマを明確にする。そして研究枠組みを構築し研究目的に適した計画書を作成する。												
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性を述べるができる。</li> <li>2. 興味・関心が深い課題の先行研究についてクリティークができる。</li> <li>3. 看護研究の目的を焦点化し、テーマを設定する。</li> <li>4. 研究の枠組みを構築し研究計画書が作成できる。</li> </ol>												
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回～第 3 回</td> <td>各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性</td> </tr> <tr> <td>第 4 回～第 7 回</td> <td>興味・関心が深いがん看護の課題に関する研究のクリティーク</td> </tr> <tr> <td>第 8 回～第 9 回</td> <td>研究の目的の焦点化・看護研究のテーマの設定</td> </tr> <tr> <td>第 10 回～第 16 回</td> <td>がん患者の特徴をふまえた研究の枠組みの作成</td> </tr> <tr> <td>第 17 回～第 22 回</td> <td>理論的サブストラクションを基盤に研究計画書の作成</td> </tr> </table>				第 1 回～第 3 回	各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性	第 4 回～第 7 回	興味・関心が深いがん看護の課題に関する研究のクリティーク	第 8 回～第 9 回	研究の目的の焦点化・看護研究のテーマの設定	第 10 回～第 16 回	がん患者の特徴をふまえた研究の枠組みの作成	第 17 回～第 22 回	理論的サブストラクションを基盤に研究計画書の作成
第 1 回～第 3 回	各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性													
第 4 回～第 7 回	興味・関心が深いがん看護の課題に関する研究のクリティーク													
第 8 回～第 9 回	研究の目的の焦点化・看護研究のテーマの設定													
第 10 回～第 16 回	がん患者の特徴をふまえた研究の枠組みの作成													
第 17 回～第 22 回	理論的サブストラクションを基盤に研究計画書の作成													
評価方法	授業への参加状況・プレゼンテーション (30%) レポート (70%)													
参考書テキスト等	参考文献 ・がん看護コアカリキュラム、医学書院 ・D.Fボーリット、B.P.ハングレー著、近藤潤子訳、看護研究 原理と方法、医学書院 ・Nancy Burns, SuzanK.Grove著、黒田裕子他訳、看護研究入門、エルゼビア・ジャパン ・日本看護科学学会学会誌や日本がん看護学会誌を活用する													
授業外学習の内容	各自の興味・関心がありさらに深めたい課題に関する学習を行い、また資料を持参し授業にのぞむこと。													

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	がん看護学実習	英文名	Clinical Practice : Advanced Cancer Nursing
担当者	石田 順子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的到達目標	<p>演習Ⅱで作成した手術を受けたがん患者・家族への看護ケア、患者および家族をサポートする看護師自身のプログラムについて実践する。実践する際は、各プログラムの要点をおさえながら進め、プログラムの問題点や課題を考えながら実践する。その後、改善点について明確化を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習Ⅰ・Ⅱで学び得た知識と技術を具体的な計画のもとで総合的に活用する。</li> <li>2. 計画した看護研究における看護ケアプログラムを効果的に実践できる。</li> <li>3. 実施した看護ケアプログラムの問題点や課題を整理できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>2年次4月から5月に開講する。 実習の予定は21日間とする。 下記のプログラムに沿って、実習を進める。実習の対象者には必要時I.Cを施行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護ケアプログラムの実施の計画・準備</li> <li>2. 看護ケアプログラムの実施 効果について、情報収集を行い、整理する</li> <li>3. 看護ケアプログラムの効果の判定・評価</li> <li>4. プレゼンテーション・まとめ</li> </ol>		
評価方法	レポートや課題への取り組み状況 (30%) 他者評価 (70%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	がん看護学演習Ⅰ・Ⅱについて各自で学習内容を整理した上で実習に臨むこと。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	がん看護学実習	英文名	Clinical Practice : Advanced Cancer Nursing
担当者	吉田 久美子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的到達目標	<p>演習Ⅱで作成した慢性的な経過をたどるがん患者に関する看護ケアプログラムについて実践する。実践する際は、各プログラムの要点をおさえながら進め、プログラムの問題点や課題を考えながら実践する。その後、改善点について明確化を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習Ⅰ・Ⅱで学び得た知識と技術を具体的な計画のもとで総合的に活用する。</li> <li>2. 慢性的な経過をたどるがん患者に関する看護研究の看護ケアプログラムを効果的に実践できる。</li> <li>3. 実施した看護ケアプログラムの問題点や課題を整理できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>2年次4月から5月に開講する。 実習の予定は21日間とする。 下記のプログラムに沿って、実習を進める。実習の対象者には必要時I.Cを施行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護ケアプログラムの実施の計画・準備</li> <li>2. 看護ケアプログラムの実施 効果について、情報収集を行い、整理する</li> <li>3. 看護ケアプログラムの効果の判定・評価</li> <li>4. プレゼンテーション・まとめ</li> </ol>		
評価方法	レポートや課題への取り組み状況 (30%) 他者評価 (70%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	がん看護学演習Ⅰ・Ⅱについて各自で学習内容を整理した上で実習に臨むこと。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	地域・精神看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ:Community Health and Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、宮崎 有紀子、田邊 要補		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的到達目標	<p>地域・精神看護学領域における健康課題を多様な角度から捉え、その課題を明確化するためのプロセスを学ぶ。近年の地域・精神看護学の研究動向を踏まえながら、対象とその家族、また保健・医療従事者の健康課題やメンタルヘルスについての理解を深める。また、喪失体験に関わる臨床的、倫理的側面の知識を習得し地域におけるグリーフケアについて探究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する対象およびその家族のもつ健康課題について理解できる。</li> <li>2. 地域・精神看護学領域における健康課題解決のための理論構築ができる。</li> <li>3. 地域の特徴を踏まえた看護介入の方法について明確化できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第1回～第2回 地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題の探究 第3回～第6回 対象および家族のもつ健康課題のアセスメント 第7回～第12回 ストレスコーピング理論、家族発達理論、死別における悲嘆プロセスおよび予期悲嘆、病的悲嘆の概念、スピリチュアルペイン、家族間における倫理的問題について 第13回～第15回 研究課題の明確化と課題発表</p>		
評価方法	ディスカッションとグループワークへの参加 (30%) プレゼンテーション (20%) レポート (50%)		
参考書テキスト等	適宜提示		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考書・テキストは講義前によく読み、予習をしていくこと。</li> <li>・講義は対話形式で行う、積極的に発言すること。</li> </ul>		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	地域・精神看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ:Community Health and Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、宮崎 有紀子、田邊 要補		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	地域・精神看護学演習Ⅰで捉えた健康課題を解決するための具体的な実践方法について、先行研究や国内外の文献を活用しながら検討する。健康課題に応じた方法論を構築したうえで、研究テーマおよび目的に基づいた看護介入プログラムを作成する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康課題の背景にある、対象および家族の発達段階や価値観について記述できる</li> <li>2. 健康課題に関連する国内外の文献について検討しクリティークができる</li> <li>3. 問題解決のための具体的な看護介入プログラムの作成ができる</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回～第2回	対象および家族の発達段階とその背景について	
	第3回～第8回	健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・介入プログラムの方向性の検討	
	第9回～第15回	健康課題の解決に向けた看護介入プログラムの作成、倫理的配慮についての検討	
	第16回～第20回	作成した介入プログラムの発表と修正	
	第21回～第22回	介入プログラムに基づく実践可能な実習プランの作成	
評価方法	ディスカッションへの参加 (30%) プレゼンテーション (30%) レポート (40%)		
参考書 テキスト等	適宜提示		
授業外学習の内容	提示された資料については必ず事前学習した上で授業に参加すること。ディスカッションでは積極的に発言すること。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	地域・精神看護学実習	英文名	Clinical Practice:Community Health and Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、宮崎 有紀子、田邊 要補		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで作成した看護介入プログラムを実践する。実践に際しては、施設・他職種との連携・調整を図りながら、プログラムの効果や問題点・改善点についても検討し、評価につなげていく。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護介入プログラムの実践ができる</li> <li>2. 実施した介入プログラムの効果判定、問題点、改善点について整理できる</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	2年次4月～6月に開講		
	4月	介入プログラムに関する全体の流れを確認する 実習場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する	
	5～6月	実習施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施 実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション	
評価方法	実習計画 (20%) 実習への取り組み (30%) ケースレポート (20%) 実習レポート (30%)		
参考書 テキスト等	適宜提示		
授業外学習の内容	プログラム実践のための施設・多職種との調整に臨んでは、具体的な計画のもとに実施すること。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	自立支援看護学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on Independent Living Support Nursing
担当者	縄 秀志		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	実習を通して修正したアセスメント方法や看護介入プログラムを実践の場で実施し、その効果について記述する事例研究の計画書を作成し、発表する。研究計画書に沿って、研究を実施し、作成したアセスメント方法の有用性や看護介入プログラムの効果および他職種との連携のあり方について、修士論文としてまとめ、提出する。	
	到達目標	1. 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを用いた事例研究の計画書が作成できる。 2. 研究計画書に沿って研究を実施し、修士論文としてまとめ提出できる。	
当該科目の内容・計画	<p>2年次6月から1月に開講する</p> <p>6～7月 事例研究計画書について 事例研究としての計画書の作成 研究テーマ、研究目的、研究デザイン、対象の選定条件、介入方法、データ収集方法、データ分析方法、研究倫理（IRを含む）について明確にし、計画書を作成する。</p> <p>8～10月 計画書に基づいて研究を実施する 計画書審査および研究倫理委員会の承認を経て研究を実施（対象者へのIRを得て、介入およびデータ収集を行なう）する。中間発表の準備</p> <p>11～1月 修士論文の作成 データ分析を実施し、課題解決に向けて作成したアセスメント方法の有用性や看護介入プログラムの効果および他職種との連携のあり方について考察し、修士論文を作成し、提出する。</p>		
評価方法	研究計画書（30%） 修士論文（70%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	指定された期日までに研究計画書を提出しなければならない。医療機関での研究倫理審査が必要な場合には7月までに承認が得られるように準備する。研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位取得はできない。		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	自立支援看護学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on Independent Living Support Nursing
担当者	吉田 久美子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	がん看護演習Ⅰ・Ⅱ、実習を基盤として、慢性的な経過をたどり治療を継続しているがん患者の生活の質の向上を目指した看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析し結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究を修士論文としてまとめる。	
	到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。	
当該科目の内容・計画	<p>4～6月 計画書の再検討・修正</p> <p>7～9月 計画書の研究方法に基づき実践</p> <p>9～10月 データの整理・分析</p> <p>10月 中間発表会のための準備</p> <p>11～1月 研究結果を考察し論文の作成 プレゼンテーション</p>		
評価方法	修士論文とプレゼンテーション（100%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	<p>1. 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら積極的に研究を進める。</p> <p>2. がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。</p> <p>【備考】 定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。</p>		

科目区分	臨床看護学分野 自立支援看護学専門科目 自立支援看護学領域		
科目名	自立支援看護学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on Independent Living Support Nursing
担当者	倉林 しのぶ		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	実習で修正した介入プログラムについて、臨床の場面で実施しデータ収集を行う。研究計画書に沿って、研究に適した分析方法によってデータを分析し、系統立てて整理した上で、修士論文としてまとめ提出する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。</li> <li>2. 実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。</li> <li>3. プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	4～6月 計画書の再検討と修正 7～9月 計画書に沿ってデータ収集を実施 10～11月 データ分析と結果のまとめ 12～1月 論文作成 プレゼンテーション		
評価方法	修士論文とプレゼンテーション (100%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。計画に沿って論文作成をすすめること。		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	母子看護学演習 I	英文名	Advanced Seminar I : Advanced Maternal & Child Nursing
担当者	新野 由子、櫻井 美和		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学特論での学びをもとに、母性、子どもと家族の持つ健康課題を明確化する。母性・父性に関する理論、家族理論、子どもの成長と発達に関する理論、保育・教育理論、ソーシャルサポート理論などの諸理論から健康課題を捉えなおし、そのフィールドの特徴を明確化し、看護職の役割と看護介入のあり方が理解できるように指導する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性、子どもと家族の持つ健康課題と看護実践の現状について記述できる。</li> <li>2. 記述した健康課題を、母子看護に関する諸理論から捉えなおすことができる。</li> <li>3. フィールドの特徴を踏まえ、求められる看護の役割、看護介入方法と課題を明確化できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回 母性、子どもと家族の持つ健康課題と看護の役割、課題について 第 2 回～第 4 回 母性、子どもと家族の持つ健康課題と看護実践について記述する。 第 5 回～第 7 回 親性獲得に関する理論、家族理論、子どもの成長と発達に関する理論、保育・教育理論、ソーシャルサポート理論などの諸理論から記述した健康課題を捉えなおす。 第 8 回～第 11 回 記述した健康課題について文献レビューを行い、現時点でのエビデンスをまとめる。 第 12 回～第 14 回 記述した現象を元に健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化し、発表する。 第 15 回 課題に関連した論文のクリティーク		
評価方法	授業参加度、参加態度、貢献度 (10%) プレゼンテーション、クリティーク (30%) レポート (60%)		
参考書テキスト等	1) スー・プロクター. 助産学研究入門. 医学書院 2) Marshall H. Klaus/John H. Kennell 訳 竹内徹他. 親と子のきずな. 医学書院		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習、復習を行い、課題に対して積極的に取り組むこと。</li> <li>2. 自分で考え、主体的に行動する姿勢で臨むこと。</li> </ol>		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	母子看護学演習Ⅱ	英文名	Advanced Seminar I: Advanced Maternal and Child Nursing
担当者	新野 由子、櫻井 美和		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学演習Ⅰで選定した健康課題を解決するためのアプローチについて、文献検討やディスカッションを通して検討し、チーム医療の担い手としての看護介入プログラムを作成することを指導する。また、看護介入プログラムの有効性を評価するための方法、指標を理解することができる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に対する看護介入のあり方、看護の課題を文献検討をもとに明確化できる。</li> <li>2. 健康課題に対する看護介入プログラムを作成できる。</li> <li>3. 看護介入プログラムの実践における適用方法を検討することができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 母性、子どもと家族に対する健康課題と看護実践の課題解決について 第2回～第8回 母性、子どもと家族に対する健康課題と看護実践の課題解決方法を文献検討から導き出し、発表する。 第9回～第15回 文献検討をもとにして、課題解決に向けた看護介入プログラムを作成し発表する。また、評価方法、評価基準を作成する。倫理的な課題、倫理的配慮について検討する。 第16回～第20回 立案した看護介入プログラムを発表し、修正する。 第21回～第22回 看護介入プログラムを実践するためのフィールドにおける実習計画を作成する。		
評価方法	授業参加度、参加態度、貢献度（10%） プレゼンテーション（30%） クリティーク（60%）		
参考書テキスト等	スー・プロクター. 助産学研究入門. 医学書院		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に対して積極的に取り組むこと。</li> <li>2. 自分で考え、主体的に行動する姿勢で臨むこと。</li> </ol>		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	母子看護学実習	英文名	Advanced Practice of Maternity Nursing
担当者	新野 由子、櫻井 美和		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学演習Ⅱで作成した女性あるいは親と子どもおよびその家族への看護介入プログラムをフィールドで実施し、介入プログラムや他職種と連携するための問題点を抽出し、実践に適用するためのプログラム修正について指導する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作成した看護介入プログラムを実践することができる。</li> <li>2. 実践を通して、看護介入プログラムの問題点、評価方法、指標を明確化し、修正することができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	2年次4月から5月に開講する。 第1日 病棟実習：作成した看護介入プログラムを実施する対象を選定し、実習についての説明を行う。 第2日～第6日 病棟実習：作成した看護介入プログラムを実施し、反応、効果について情報収集を行う。 第7日～第10日 学内実習：作成した看護介入プログラムの実施および効果について情報収集をもとに事例をまとめ、実践適用における問題点を明らかにする。 学内実習：実践適用における問題点を踏まえて、作成した看護介入プログラムと評価方法、評価指標の修正を行う。 第11日 病棟実習：修正した看護介入プログラムを実施する対象を選定し、実習についての説明を行う。 第12日～第17日 病棟実習：修正した看護介入プログラムを実施し、反応、効果について情報収集を行う。 第18日～第21日 学内実習：作成した看護介入プログラムの実施および効果について情報収集をもとに事例をまとめ、特別研究で用いる看護介入プログラムおよび評価方法を確定する。		
評価方法	実習内容（50%） レポート（50%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	自分の課題を実習を通して明確にすること。		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	老年・在宅看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ:Gerontological and Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき、大澤 幸枝		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	高齢者患者と家族に特有な看護実践方法その評価を探索し、高度看護専門職としての課題を明確にする。また、質の高い在宅看護サービスを提供するための看護実践方法を、事例などから学び、施設における現状や問題を明確化する。 また、在宅看護サービスの質の維持、向上に関して計画的に実践していくための必要な知識を習得する。	
	到達目標	老年・在宅看護領域に関する理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。また、実際に行われている老年看護や在宅看護実践方法について検討し、研究課題の方向性を見出す。	
当該科目の内容・計画	第1回～第2回	老年看護において実施されている看護実践方法から課題を明確にする。 ①認知症ケアについて（大澤） ②院内デイケアから考える（大澤）	
	第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回～第14回 第15回	在宅看護の質の管理：訪問看護事業所（棚橋） 在宅看護分野におけるサービスの質評価・改善①（棚橋） 在宅看護分野におけるサービスの質評価・改善②（棚橋） 在宅看護と行政研究（棚橋） 在宅看護の質の管理：人材育成（棚橋） 在宅看護において実施されている看護実践方法から課題を明確化する。（棚橋） ①皮膚・排泄ケア認定看護師コンサルテーション ②COPD地域連携バス ③胃ろう連携バス 事例のまとめと発表を行い、課題と方向性を見出す。（棚橋）	
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。 総合討論等の成果（60%） 授業参加度・貢献度（40%）		
参考書テキスト等	アイボ・エイブラハム：ベストプラクティスのための高齢者ケアプロトコール。医学書院 堀内園子：認知症看護入門。ライフサポート社 岡田晋吾編：地域連携バスの作成術・活用術 看護の事業所開設Q&A 日本看護協会出版社 その他適宜指示する		
授業外学習の内容	老年看護に関するトピックスなどをあらかじめ時間外に学習して臨んでほしい。 訪問看護の質向上のための方法に関する情報収集を事前に行って参加してほしい。		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	老年・在宅看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ:Gerontological and Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	自己の抱える問題や課題を事例検討会やフィールドワークをとおして高度訪問看護実践に必要な能力における知識を獲得する。また、文献学習にて、論文読解能力を高め多様な研究方法について理解し、研究計画の作成の方法や実験的な研究方法の基礎的知識と応用力を身につける。老年・在宅看護に関する研究の現状を理解し、プログラム作成の基本を見出す。	
	到達目標	1. 老年・在宅看護関連の課題解決方法を、文献学習や研究手法などから理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。 2. プログラムの基本形の作成ができる。 3. 作成したプログラムから、自分の考えをまとめ、ディスカッションを行うことができる。	
当該科目の内容・計画	第1回～第3回	先進的活動をしている高度老年、訪問看護実践現場を見学し、看護師が担う役割と機能についてまとめ発表する。 ①診療報酬外活動	
	第4回～第6回 第7回～第10回 第11回～第14回 第15回～第18回 第19回～第22回	高度訪問看護実践現場を見学し、看護師が担う役割と機能についてまとめ発表する。 ②訪問看護ステーションにおける認定看護師活動等 先駆的在宅移行や高度訪問看護実践現場を見学等行い、看護師が担う役割と機能についてまとめ発表する。 ③退院時連携活動をとおして 学会への参加を通して、実践的な技術開発のための研究手法を学ぶ 在宅看護における手法について文献検討し、効果的な解決手法について選択する。 在宅看護に関する介入のための演習やグループディスカッションをもとに、在宅看護における看護介入プログラムを作成し発表する。	
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や資料準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。 レポート（70%） 発表（30%）		
参考書テキスト等	日本在宅ケア学会誌 廣谷速人著：論文のレトリック その他適宜指示する		
授業外学習の内容	自己の課題を明確にして、事前に老年・在宅看護におけるトピックスなどを学習して、文献学習、事例検討会に取り組んでほしい。		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	老年・在宅看護学実習	英文名	Clinical practice:Gerontological and Home care Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで作成した看護介入プログラムを訪問看護ステーションや介護施設、病院などの実践の場において実施し、プログラムの問題点や課題を含めて修正を行う。加えて他職種との連携における問題点も抽出しプログラムの修正を行う。	
	到達目標	1. 作成した看護介入プログラムを実施することができる 2. 実施したプログラムの問題点、課題を明確化し修正することができる	
当該科目の内容・計画	<p>4月 介入プログラムの作成について 介入計画、プログラム実施場所の選定、データ収集方法、データ分析方法等について明確にする。また、実習する施設の指導者と打ち合わせを行いプログラムを作成する。</p> <p>5月 プログラムに基づいて施設において実施する。</p> <p>5月末 実施したプログラムについて評価を行い、改善点について明確にする。</p>		
評価方法	実習内容50%、プログラム計画50%を基準として、総合的に評価する		
参考書テキスト等	適宜資料を配布する。		
授業外学習の内容	看護介入プログラム実践にあたり、具体的な計画を準備しておくこと。		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	家族支援看護学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on Advanced Maternal & Child Nursing
担当者	新野 由子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学実習で修正した看護介入プログラムをフィールドで実施するための、事例研究の計画書を作成し、発表する。研究計画書に、そのプログラムの効果および他職種との連携のあり方について考察を深め、臨床に応用するための改善点を明確にできるよう指導する。	
	到達目標	1. 作成した看護介入プログラムを用いた事例研究の計画書を作成することができる。 2. 研究計画書に沿って研究を実施し、修士論文としてまとめることができる。	
当該科目の内容・計画	<p>2年次6月から1月に開講する。</p> <p>4～6月 研究計画書の作成 研究テーマ、研究目的、研究方法、対象の選定条件、データ収集、分析方法を明確にし、研究倫理審査申請書作成、研究計画書を作成する。 研究計画書の審査及び研究倫理審査委員会の承認を得る。</p> <p>7～10月 研究計画書に基づいて研究を実施する。 (対象への説明と同意を得たあと、看護介入、データ収集を行う) 調査結果の集計・科学的分析</p> <p>11～1月 修士論文を作成・まとめ提出する。</p>		
評価方法	研究計画書 (30%) 修士論文 (70%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	<p>1. テーマの選定や研究計画書作りに十分に時間をかけること。 2. 研究方法や分析方法に関しても、文献などを活用し主体的に考えること。 3. 時間の使い方を十分に考慮し、積極的に取り組むこと。 【計画的な進行についての注意事項】 指定した期日までに研究計画書を提出すること。医療機関での研究倫理審査が必要な場合には7月までに承認が得られるように準備する。研究科委員会の審査及び研究倫理審査委員会の承認を得なければ研究は実施できない。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位の取得はできない。</p>		

科目区分	臨床看護学分野 家族支援看護学専門科目 家族支援看護学領域		
科目名	家族支援看護学特別研究	英文名	Seminar for master's Thesis on Family Supports Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	老年・在宅看護学実習で修正した看護介入プログラムをフィールドで実施するため、事例研究の計画書を作成し発表を行う。訪問看護事業所のシステムや関係職種、在宅関連施設等でのプログラムの効果及び他職種との連携のあり方について考察を深め在宅看護について課題を明確にし、臨床に応用するための改善点を明確にする。	
	到達目標	老年・在宅看護学実習で修正した看護介入プログラムをフィールドで実施するため、事例研究の計画書を作成し発表を行う。訪問看護事業所のシステムや関係職種、在宅関連施設等でのプログラムの効果及び他職種との連携のあり方について考察を深め在宅看護について課題を明確にし、臨床に応用するための改善点を明確にする。	
当該科目の内容・計画	4～6月	事例研究計画書について介入したプログラムの実施、評価から事例研究としての計画書を作成する。 研究テーマ、研究目的、デザイン、データ収集方法等について明確にし、計画書を作成する。 研究計画書の審査及び研究倫理審査委員会の承認を得る。	
	7～9月	研究計画書に基づいて研究を実施する。 調査結果の集計・科学的分析	
	10月	研究中間発表	
	10～1月	修士論文の作成 データ分析を行い、自己の課題解決に向けて作成した看護介入プログラムの効果等について論文を作成し提出する。	
評価方法	修士論文（100%）		
参考書テキスト等	適宜資料を配布する。		
授業外学習の内容	各自でデータ整理や分析方法について、事前に学習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。また、論文の作成にあたり、倫理審査等の承認を得なければ実施できない。		

科目区分	臨床看護学分野 看護管理学専門科目 看護管理学領域		
科目名	看護管理学演習 I	英文名	Seminar I :Advanced Nursing Administration
担当者	池田 優子		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護組織活動の効果的推進に必要なグループマネジメントの手法について、グループダイナミック理論や動機づけ理論をとらえて理解するとともに、キャリア開発のための人材育成プログラムについて検討する。	
	到達目標	1. 組織管理におけるグループマネジメントの課題について理解できる。 2. キャリア開発に関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回	組織の構造的側面と人間的側面の構築に関する課題を明確化する。	
	第 2 回	組織管理におけるグループマネジメントに関する課題を記述する。	
	第 3 回～第 5 回	体験の中で見出した課題について、グループダイナミクス理論、動機づけ理論、行動変容理論等を用いて分析する。	
	第 6 回～第 8 回	人材育成とキャリア開発に関する課題を明確化し、面接技法、コーチング技法を学習する	
	第 9 回～第 11 回	マネジメントに関する国内外の文献を検索し、自己の課題を明確化する。	
	第 12 回～第 14 回 第 15 回	人材育成に関する事例検討の中から解決すべき課題を明確化する。 事例のまとめと発表を行い、課題と方向性を見出す。	
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や演習素材の準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。演習参加度（30%）、レポート（70%）		
参考書テキスト等	1. 金井壽宏・高橋潔：組織行動の考え方、東洋経済新報社 2. Edgar H. Schein：Career Anchors、金井壽宏訳、キャリアアンカー、白桃書房 3. Raymond G. Miltenberger: Behavior Modification、園山茂樹他訳、行動変容法入門、二瓶社 4. 宗像恒次：最新 行動科学からみた健康と病気、メジカルフレンド社 5. 坂野雄二・前田基成：セルフエフィカシーの臨床心理学、北大路書房		
授業外学習の内容	グループマネジメントの手法について、事前に文献学習をしておくこと。また、事例検討の項目においては、事前に文献等での準備をして授業に望んでほしい。		

科目区分	臨床看護学分野 看護管理学専門科目 看護管理学領域		
科目名	看護管理学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ:Advanced Nursing Administration
担当者	池田 優子		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅰで明確にした、グループマネジメントやキャリア開発に関する課題、文献検索と討議の中から解決手法を導き出し、看護管理に関する解決すべき課題を明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループマネジメントやキャリア開発に関する課題を明らかにできる。</li> <li>2. 人材育成に向けた管理手法を学び、解決すべきテーマを絞る事ができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回～第10回 第11回～第16回 第17回～第20回 第21回～第22回	国内外のマネジメントやキャリア開発に関する文献の検討を行い、自己の経験と照らし合わせながら、解決すべき課題やテーマを抽出する。 解決すべき課題とその解決手法について検討する。動機づけ面接や人材育成教育プログラムなど介入方法を選択する。選択した方法の妥当性について文献をもとに検討する。 「看護管理に関して解決すべき課題」を実践の中から広く検索する。 「看護管理に関して解決すべき課題」についてテーマを絞りあげる。	
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や演習素材の準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遠藤辰雄編：アイデンティティの心理学、ナカニシヤ出版</li> <li>2. 中谷基之編：学ぶ意欲を育てる人間関係づくり、動機づけの心理学、金子書房</li> <li>3. Jerrold S.Greenberg：Comprehensive Stress Management、服部祥子 山田富美雄監訳、包括的ストレスマネジメント、医学書院</li> </ol>		
授業外学習の内容	文献検索やテーマの絞り上げについて、演習時間ごとに、進捗状況の報告やプレゼンテーションの準備を事前に行って臨む事。		

科目区分	臨床看護学分野 看護管理学専門科目 看護管理学領域		
科目名	看護管理学実習	英文名	Clinical Practice Advanced Nursing Administration
担当者	池田 優子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	看護管理学特論及び演習Ⅰ、Ⅱの中から、看護管理に関する自らの問題認識にもとづいて選択した課題を、実践を通して探究する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理に関する課題に基づいて研究介入プログラムの作成ができる。</li> <li>2. 実習場所を選択し、フィールドワークを行うことができる。</li> <li>3. 実習内容の結果について分析を行い妥当性を検討し、実践に適応できるように修正ができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	4月 5月	介入プログラムの作成について 介入計画、プログラム実習場所の選定、データ収集方法、データ分析方法等について明確にする。 実習施設とプログラム内容について打ち合わせ、調整を行う。 プログラムに基づいて、施設において実施する 実施したプログラムについて評価を行い、改善点について明確にする。 特別研究で用いる介入方法、評価指標について確定し、研究計画を明確化する。	
評価方法	実習についての態度やレポート、カンファレンス等での発表、実習指導者の評価等を統合して判断する 実習内容(60%) プログラム計画(40%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	実習については、特別研究で用いる介入方法や評価指標を確定できるよう、積極的・主体的な学習活動を行うこと。		

科目区分	臨床看護学分野 看護管理学専門科目 看護管理学領域		
科目名	看護管理学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on Advanced
担当者	池田 優子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	看護管理学の課題解決に向け研究目的・研究デザイン方法を明確化し、研究を実施する。研究実施後、作成した看護介入プログラムの効果やマネジメントの在り方等について論文としてまとめ、提出する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの関心領域に沿った研究計画書を作成できる。</li> <li>2. 研究計画書に沿って調査活動を実施し、その効果や課題について論文としてまとめて提出できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>4～6月 文献検索及び自らの関心に基づき、解決すべき課題を明確にし、研究テーマ、研究目的、デザイン、データ収集方法等について明確にし、計画書を作成する。 (計画書審査、研究倫理委員会の承認を得る)</p> <p>7～9月 研究計画書に基づいて研究を実施する</p> <p>10月 研究中間発表</p> <p>10～1月 修士論文の作成</p> <p>データ分析を行い、自己の課題解決に向けて作成した看護介入プログラムの効果等について論文を作成し提出する。</p>		
評価方法	特別研究論文 (100%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	医療機関において研究倫理審査が必要な場合には、研究に支障がないように承認を得る。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位取得はできない。		

科目区分	国際保健医療学分野 国際保健医療学専門科目 国際看護学領域		
科目名	国際看護学特論 I	英文名	Advanced International Nursing I
担当者			
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	国際的な視野に立って世界の看護・保健・医療・福祉の現状を理解し、国際看護学の課題と展望を追及する。国際看護学の基本的概念としてのグローバル・ヘルス、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション等を教授し、今日のグローバル・ヘルスの諸課題について検討する。また、国連ミレニアム開発目標と達成状況ならびに現在の国際保健医療の実態、国際機関（国際赤十字・国連機関・NGO）などが実施する国際協力・援助活動などを教授し、国際協力活動を担う医療職として必要不可欠な知識・技術ならびに国際看護学の課題について検討する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護学の基本的知識について理解を深めることができる。</li> <li>2. 国際的な視野に立って世界の保健・医療・看護の現状を理解できる。</li> <li>3. 国際保健・看護活動における課題について検討できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 グローバル・ヘルス、プライマリヘルスケアおよびヘルスプロモーションの概念</p> <p>第 3 回 グローバル・ヘルスにおける課題</p> <p>第 4 回 国連ミレニアム開発目標</p> <p>第 5 回 国連ミレニアム開発目標の達成状況</p> <p>第 6 回 国連ミレニアム開発目標達成への課題</p> <p>第 7 回 難民支援の実情</p> <p>第 8 回 難民支援の課題</p> <p>第 9 回 異文化適応と異文化看護論</p> <p>第 10 回 国際機関による救助活動</p> <p>第 11 回 開発途上国における感染症対策と課題</p> <p>第 12 回 開発途上国における母子保健の問題と取り組み</p> <p>第 13 回 開発問題とジェンダー</p> <p>第 14 回 開発途上国における国際看護活動の実際：フィリピン</p> <p>第 15 回 開発途上国における国際看護活動の実際：フィジー</p>		
評価方法	研究テーマへの取り組み姿勢やレポートの提出などで総合的に評価する。 ・講義内でのディスカッション、プレゼンテーション、通常授業中でのコメントなどへの評価 (50%) ・学期末に課すレポートによる評価 (50%)		
参考書テキスト等	特に使用せず、資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義内で紹介する。		
授業外学習の内容	講義内容に即して課題を提示するので、文献検索を現時点でのエビデンスを踏まえて、国際保健・看護活動の課題と展望について発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションは積極的に参加すること。		

科目区分	国際保健医療学分野 国際保健医療学専門科目 国際看護学領域		
科目名	国際看護学特論Ⅱ	英文名	Advanced International Nursing Ⅱ
担当者			
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	災害の種類や特徴について世界の災害被害状況の動向を基に教授する。災害が人々の健康や生活に与える影響、被災者の疾病構造の変化や被災者のこころの変化について災害サイクルを基盤に検討する。被災者の健康問題や生活問題を解決するための医療システムや医療活動など、災害医療の今日的課題について探求し、国内外の災害時における医療チーム活動に必要な知識・判断力・技術・行動力を習得するべく国際的な災害医療活動の現状と課題について検討する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の特徴、人々の生活や環境に与える影響について理解できる。</li> <li>2. 被災者の特徴、要援護者について理解できる。</li> <li>3. 災害サイクルに伴う被災者の疾病構造の変化や被災者のこころの変化について理解できる。</li> <li>4. 被災者の療養環境や避難生活に与える影響について理解し、必要な看護活動について検討できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション</li> <li>第2回 災害および災害看護の概念</li> <li>第3回 日本および世界の災害発生と被害状況</li> <li>第4回 災害急性期の看護活動</li> <li>第5回 災害中長期の看護活動</li> <li>第6回 静穏期の看護活動：病院防災</li> <li>第7回 災害時要援護者への看護：高齢者</li> <li>第8回 災害時要援護者への看護：母子</li> <li>第9回 災害時要援護者への看護：障害者/慢性疾患患者</li> <li>第10回 在日外国人被災者への支援</li> <li>第11回 災害と被災者のこころの変化</li> <li>第12回 災害時の被災者へのこころのケア</li> <li>第13回 災害時の救援者とこころのケア</li> <li>第14回 災害時における国際協力</li> <li>第15回 災害看護の実際：ジャワ島ジョグジャカルタ地震被災地における救援活動</li> </ol>		
評価方法	研究テーマへの取り組み姿勢やレポートの提出などで総合的に評価する。 ・講義内でのディスカッション、プレゼンテーション、通常授業中でのコメントなどへの評価 (50%) ・学期末に課すレポートによる評価 (50%)		
参考書テキスト等	特に使用せず、資料を配布する。参考文献は必要に応じて講義内で紹介する。		
授業外学習の内容	講義内容に即して課題を提示するので、文献系策をし現時点でのエビデンスを踏まえて、災害医療・看護活動の課題と展望について発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションは積極的に参加すること。		

科目区分	国際保健医療学分野 国際保健医療学専門科目 国際看護学領域		
科目名	国際看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ:International Nursing
担当者	寺田 眞廣		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	国際看護学Ⅰ、Ⅱでの学びを基に、国際保健・災害看護活動の対象国における健康課題・問題について文献学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して各自の研究課題の明確化につなげる。具体的な事象の検討を文献の裏付けを基に多角的に行いながら研究的思考プロセスを修得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際保健・災害看護活動の対象国における健康課題・問題について文献学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して各自の研究課題を明確化することができる。</li> <li>2. 具体的な事象について文献の裏付けを基に多角的に検討することができる。</li> <li>3. 書くこと・発表すること・ディスカッションすることを通して、研究的思考のプロセスを体得できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション</li> <li>第2回～第3回 対象国におけるグローバルヘルスに関する文献検索</li> <li>第4回～第6回 対象国におけるグローバルヘルスに関する文献のプレゼンテーションとディスカッション</li> <li>第7回～第9回 研究課題の明確化のための文献検討</li> <li>第10回～第12回 研究課題に関する文献のプレゼンテーションとディスカッション</li> <li>第13回～第15回 国際看護学実習における計画作成 研究課題を明らかにするための対象、フィールドの検討</li> </ol>		
評価方法	研究課題への取り組み姿勢やレポートの提出などで総合的に評価する。 ・講義内でのディスカッション、通常授業中でのコメント(30%) ・学期末に課すレポート (70%)		
参考書テキスト等	A literature review of disaster nursing competencies in Japanese nursing journals. (文献)		
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。		

科目区分	国際保健医療学分野 国際保健医療学専門科目 国際看護学領域		
科目名	国際看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ:International Nursing
担当者	寺田 眞廣		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	国際看護学Ⅰ、Ⅱでの学びを基に、国際保健・災害看護活動における重要課題を中心に文献学習を行い、プレゼンテーションとディスカッションを通して各自の課題研究の明確化を図る。具体的事象の検討を文献の裏付けを基に多角的に行いながら研究的思考プロセスを修得する。加えて、国際看護学実習における計画を立案する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際保健・災害看護活動における重要課題を中心に文献学習を行い、それを基盤にディスカッションを通して各自の研究課題を明確化することができる。</li> <li>2. 具体的事象について文献の裏付けを基に多角的に検討することができる。</li> <li>3. 書くこと・発表すること・ディスカッションすることを通して、研究的思考のプロセスを体得できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 オリエンテーション 第2回～第3回 対象国における国際保健・災害看護活動に関する文献検索 第4回～第6回 対象国における国際保健・災害看護活動に関する文献のプレゼンテーションとディスカッション 第7回～第9回 研究課題の明確化のための文献検討 第10回～第12回 研究課題に関する文献のプレゼンテーションとディスカッション 第13回～第15回 国際看護学実習における計画作成 研究課題を明らかにするための対象、フィールドの検討 第16回～第22回 研究計画書の作成 研究課題の明確化、対象とフィールドの検討、調査方法ならびに介入方法の検討、介入の効果指標の検討		
評価方法	研究課題への取り組み姿勢やレポートの提出などで総合的に評価する。 ・講義内でのディスカッション、通常授業中でのコメント(30%) ・学期末に課すレポート(70%)		
参考書テキスト等	いのちと心を救う災害看護(学研) 演習で学ぶ災害看護(南山堂) Emergency department patient presentations during the 2009 hestwaves in Adelaide(文献)		
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。		

科目区分	国際保健医療学分野 国際保健医療学専門科目 国際看護学領域		
科目名	国際看護学実習	英文名	Clinical Practice Advanced International Nursing I
担当者	寺田 眞廣		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択3単位		
当該科目の目的	講義目的	研究課題に適したフィールドでの実習を通して、国際保健・災害看護の現場で活動する上での基本的な知識・技術・判断力・行動力を習得するとともに、活動現場におけるネットワークの構築を目指す。また、フィールド活動を通して、国際保健・災害看護における課題や課題解決に向けた活動・支援方法や体制についての情報収集・分析を行い、自らの研究課題・研究方法について検討する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習を通して、国際保健や災害看護の活動現場におけるネットワークを構築することができる。</li> <li>2. 実習を通して、国際保健や災害看護活動の基本的な知識・技術・判断力・行動力を習得することができる。</li> <li>3. 実習を通して自らの研究課題・研究方法について検討し、研究計画書を完成する。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1日 オリエンテーション 第2日 実習計画およびフィールド研究計画の立案 第3日～第4日 実習先との連絡調整・準備 第5日～第15日 実習の実施 第16日～第20日 実習レポートの作成 第20日～第22日 報告会		
評価方法	実習への一連の取り組み(40%) プレゼンテーション(20%) 最終提出レポート(40%)		
参考書テキスト等	必要に応じて紹介する。		
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。		

科目区分	国際保健医療学分野 国際保健医療学専門科目 国際看護学領域		
科目名	国際看護学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on International Nursing
担当者	寺田 眞廣		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択6単位		
当該科目の目的	講義目的	国際看護学実習のフィールド調査を通して修正した研究課題について、研究計画書を完成し、研究に着手する。得られたデータをもとに分析を深め、修士論文としてまとめる。研究結果を基に、国際看護学、災害看護学における課題ならびに国際保健、災害看護活動を推進するために必要な方法論について検討する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画書を作成し、研究を実施することができる。</li> <li>2. 得られたデータを分析し、修士論文としてまとめられる。</li> <li>3. 国際看護学、災害看護学における課題ならびに国際看護、災害看護活動を推進するために必要な方法論について検討できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>2年次6月から1月に開講する。</p> <p>6～7月 研究計画書の作成と研究着手の準備 8～9月 研究の実施／中間発表 11～1月 修士論文の作成／修士論文の発表</p>		
評価方法	研究計画書 (30%) 修士論文 (70%)		
参考書テキスト等	必要に応じて紹介する。		
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学特論 I	英文名	Advanced science for health education I
担当者	宮崎 有紀子、田中 聡一		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康管理に関する医学的知識、生活習慣と密接に関連する疾患の発生、進行、予防および、生活習慣と疾患の関連等に関する科学的知見につき学習する。特に環境因子が健康管理に及ぼす影響について学習する。	
	到達目標	健康管理に関する医学的知識、生活習慣がどこまで科学的に明らかにされているか説明できるようにする。また、最新の科学的知見も説明できるようにする。	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション (田中)</li> <li>第2回 生体防御システムとその働きについて (田中)</li> <li>第3回 生体防御システムに及ぼす環境因子 (田中)</li> <li>第4回 呼吸器系、血液系疾患と環境因子 (田中)</li> <li>第5回 循環器系、腎・泌尿器疾患と環境因子 (田中)</li> <li>第6回 消化器系疾患と環境因子 (田中)</li> <li>第7回 内分泌器系疾患と環境因子 (田中)</li> <li>第8回 神経系疾患と環境因子 (田中)</li> <li>第9回 生活習慣の評価 (宮崎)</li> <li>第10回 生活習慣病とリスクに関わる環境因子① (宮崎)</li> <li>第11回 生活習慣病とリスクに関わる環境因子② (宮崎)</li> <li>第12回 生活習慣病と行動変容① (宮崎)</li> <li>第13回 生活習慣病と行動変容② (宮崎)</li> <li>第14回 生活環境要因と疾病のまとめ (宮崎)</li> <li>第15回 まとめと総合討論 (宮崎)</li> </ol>		
評価方法	授業参加度・貢献度 (60%) レポート (40%)		
参考書テキスト等	日本公衆衛生雑誌、J Epidemiol 等の文献 標準的な健診・保健指導に関するプログラム (確定版) (厚生労働省)		
授業外学習の内容	受講生の興味・関心を基に、文献検討を行い、紹介してもらった授業形式なので、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うようにすること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学特論Ⅱ	英文名	Advanced science for health education II
担当者	宮崎 有紀子、田中 聡一		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康管理に対する科学的アプローチ法ならびにチーム支援による実践に迫った健康管理法について学習する。現在施行されている健康管理法について、その科学的根拠および効果を量的質的に検証することは重要である。また、健康管理支援者として専門職チームが組織として働きかける重要性を確認・学習するために、多職種それぞれの視点およびその働きを理解する	
	到達目標	疫学的研究手法や各種生活習慣の測定・評価方法、データ収集・分析方法に関する理解を深め、説明ができる。医療関係者および医療関係者以外の職種からなる健康管理にかかわる組織について説明できる。効果的な健康管理支援方法について、他職種の視点や法的規約などを交えた健康管理支援方法を説明できる。	
当該科目の内容・計画	第1回 オリエンテーション（宮崎） 第2回 疫学的研究手法（宮崎） 第3回 生活習慣の測定・評価方法①（宮崎） 第4回 生活習慣の測定・評価方法②（宮崎） 第5回 生活習慣に関するデータ分析①（宮崎） 第6回 生活習慣に関するデータ分析②（宮崎） 第7回 生活環境の測定・評価方法（宮崎） 第8回 生活環境に関するデータ分析（宮崎） 第9回 公衆衛生学と予防医学（田中） 第10回 個人が主に行う生活習慣病対策と現状（田中） 第11回 病院が主に関わる生活習慣病対策と現状（田中） 第12回 地域が主に関わる生活習慣病対策と現状（田中） 第13回 国が主に関わる生活病対策と現状（田中） 第14回 生活習慣病と環境保健（田中） 第15回 まとめと総合討論（田中）		
評価方法	授業参加度・貢献度（60%） レポート（40%）		
参考書 テキスト等	医学的研究のデザイン（メディカルサイエンス・インターナショナル） Public Health, Preventive Medicine等の文献		
授業外学習の内容	受講生の興味・関心を基に、文献検討を行い、紹介してもらった授業形式なので、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うようにすること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学演習Ⅰ	英文名	Seminar I:Advancedon science for health education
担当者	宮崎 有紀子、田中 聡一		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康教育科学特論Ⅰで学んだ内容を踏まえて、健康管理に関わる疾患、病態や免疫機構・免疫反応についての事項を具体的に挙げ、文献レビューを通して最新の知見を集め、健康管理研究者としての基盤作りをする。その上で、生活習慣、健康行動、行動変容、生活環境等に関連する問題点を明確化でき、エビデンスに基づく健康教育計画の立案、具体的な指導方法について検討できるようにし、実践的な医学的健康管理支援方法を開発できる能力を習得する。	
	到達目標	健康生活をおくる上での問題点を明確化できるようにする。課題を解決するためのアプローチについての討論ができるようにする。チーム医療および研究者に必要な能力を獲得できるように、プレゼンテーションと議論を実施できるようにする。	
当該科目の内容・計画	第1回 オリエンテーション 第2回 免疫系と疾患の事例学習 第3回 免疫系と疾患のまとめと討論 第4回 生活習慣病の事例学習（1） 第5回 生活習慣病の事例学習（2） 第6回 生活習慣病のまとめと討論 第7回 健康管理に関わる研究法について（1） 第8回 健康管理に関わる研究法について（2） 第9回 発表準備（1）ポスター発表、スライド発表、レポート発表 第10回 発表準備（2）ポスター発表、スライド発表、レポート発表 第11回 発表準備（3）ポスター発表、スライド発表、レポート発表 第12回 発表会と討議（1）ポスター発表 第13回 発表会と討議（2）スライド発表 第14回 発表会と討議（3）レポート発表 第15回 まとめと総合討論		
評価方法	授業参加度・貢献度（60%） レポート（40%）		
参考書 テキスト等	国保ヘルスアップ事業 個別健康支援プログラム実施マニュアル（厚生労働省） 日本公衆衛生雑誌、J Epidemiol 等の文献		
授業外学習の内容	文献などの検討を十分に行い、発表の準備をすること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ:Advancedon science for health education
担当者	宮崎 有紀子、田中 聡一		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康管理学特論Ⅱで学んだ内容を踏まえて、具体的な健康管理法に対する科学的アプローチを学習する。実践的な内容を挙げ、その評価法、妥当性などの検証法を学習し、健康介入教育を念頭に置いた実践的研究法を修得する。さらに、チーム健康支援の実例を挙げて、多職種専門職組織が効果的に活動するための方法論、および、文献検索などによるエビデンスに基づいた健康管理研究・開発能力を獲得できるように指導し、実践応用能力および研究能力を養う。	
	到達目標	事例をもとに健康教育介入に必要な科学的情報に基づいた研究法を提示できるようにする。健康支援チームとして関わりができるように各職の計画を立案する。立案した計画をもとに研究法をプレゼンテーションする。	
当該科目の内容・計画	第1回 オリエンテーション 第2回 病院と地域のチーム医療オリエンテーション 第3回 病院でのチーム医療事例学習(1) 第4回 病院でのチーム医療事例学習(2) 第5回 病院でのチーム医療のまとめと討論 第6回 地域でのでのチーム医療事例学習(1) 第7回 地域でのでのチーム医療事例学習(2) 第8回 地域でのチーム医療のまとめと討論 第9回 発表準備(1)ポスター発表、スライド発表、レポート発表 第10回 発表準備(2)ポスター発表、スライド発表、レポート発表 第11回 発表準備(3)ポスター発表、スライド発表、レポート発表 第12回 発表会と討議(1)ポスター発表 第13回 発表会と討議(2)スライド発表 第14回 発表会と討議(3)レポート発表 第15回 まとめと総合討論		
評価方法	授業参加度・貢献度(60%) レポート(40%)		
参考書テキスト等	国保ヘルスアップ事業 個別健康支援プログラム実施マニュアル(厚生労働省) Public Health, Preventive Medicine等の文献		
授業外学習の内容	文献検討のほか、各自で必要な情報収集を行い、発表準備をすること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ:Advancedon science for health education
担当者	田中 聡一		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	受講生が関心を持った健康管理研究法、指導法等の研究課題について、研究の明確化、文献検索、理論的枠組みの作成、研究デザインの選択、データ収集、分析などといった研究計画作成過程を段階的に習得し、研究計画書を作成できるようにする。	
	到達目標	受講生各自で研究テーマを選択できるようにする。選択した研究テーマにつき、総合討論の上、的確なデザインを立案できるようにする。立案の過程を含めた各自の研究を発表できるようにする。研究計画書を作成する。	
当該科目の内容・計画	4月 研究テーマ最終決定、最終的な問題の明確化討議 5月 研究計画書作成 6月 研究計画書提出		
評価方法	研究計画書(100%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	予習・復習が欠かせないので、各自必ず行うこと。また、積極的に発表すること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ:Advancedon science for health education
担当者	宮崎 有紀子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康教育、生活習慣、健康行動、行動変容、生活環境等に関する受講生の各研究課題について、研究課題の明確化、文献検索、理論的枠組みの作成、研究デザインの選択、データ収集・分析等といった研究計画書作成過程を段階的に発表・討議できるように指導する。文献検討やフィールドワークを通して研究課題を明確化し、必要に応じてプレテスト等を行い、データ収集・分析の実施に向けて実現可能性を確認する。	
	到達目標	・研究計画書を作成し、研究の実施に向けて準備・修正をすることができる。	
当該科目の内容・計画	2年次4月～6月に開講する		
	第1回～第3回	研究計画書作成	
	第4回～第5回	研究計画書の発表・討議	
	第6回～第10回	プレテストの実施	
	第11回～第15回	研究計画書の修正	
評価方法	研究計画書（100%）		
参考書テキスト等	日本公衆衛生雑誌、Public Health等の雑誌掲載論文		
授業外学習の内容	研究計画書の作成を行い、発表・討議に向けた準備をすること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on science for health education
担当者	田中 聡一		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	教育現場や都道府県・市町村等の健康管理・増進政策立案に耐えうるレベルの健康管理法の開発および健康管理企画（研究デザイン作成、研究遂行、データ解析、発表）が立案できるような能力を習得する。	
	到達目標	健康教育科学領域において各自が選んだ研究課題について、調査、解析を行い、ポスター発表、スライド口演発表、論文発表ができるようにそれぞれを完成させる。	
当該科目の内容・計画	2年次7月～1月に開講		
	7～9月	データ収集	
	9月	中間発表会	
	10～11月	データ分析	
	12月	発表会	
	12～1月	修士論文作成	
評価方法	修士論文（100%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	予習・復習が欠かせないので、各自必ず行うこと。また、積極的に発表すること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 健康教育科学領域		
科目名	健康教育科学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on science for health education
担当者	宮崎 有紀子		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	エビデンスに基づく健康教育に向けて、健康教育の基礎資料や、健康教育方法の評価等に関する課題を設定して研究計画の立案、データ収集と分析、研究論文の作成を指導する。食生活や喫煙といった生活習慣の実態と健康への影響、健康行動や行動変容に関する研究課題を指導する。また、アレルギー疾患等の生活環境要因がかかる疾患の疫学や生活習慣に関する研究課題を指導する。	
	到達目標	・研究計画書に沿って研究を実施し、修士論文を作成する。	
当該科目の内容・計画	2年次7月～1月に開講する。		
	7月	研究倫理審査	
	8～9月	データ収集	
	10月	中間発表会	
	11月	データ分析	
	12～1月	修士論文作成	
評価方法	修士論文（100%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	研究の実施、データ分析とまとめ、論文作成となる。疑問、質問事項、その他、ディスカッションする内容を明らかにしておくこと。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 看護技術学領域																				
科目名	看護技術学特論Ⅰ	英文名	Advanced Nursing Art and Science I																		
担当者	縄 秀志																				
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位																				
当該科目の目的	講義目的	看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解する。また、具体的な看護技術のエビデンスを調べ、臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解する。																			
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解できる。</li> <li>2. 具体的な看護技術（温罌法ケア、足浴ケア、背面開放座位ケア、体圧分散ケアなど）のエビデンスを調べることができる。</li> <li>3. 臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解できる。</li> </ol>																			
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>看護技術の条件について</td></tr> <tr><td>第2回～第3回</td><td>温罌法ケアのエビデンスの構築について</td></tr> <tr><td>第4回～第5回</td><td>関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス1</td></tr> <tr><td>第6回～第7回</td><td>関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス2</td></tr> <tr><td>第8回～第9回</td><td>腰背部温罌法ケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究</td></tr> <tr><td>第9回～第10回</td><td>関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究1</td></tr> <tr><td>第11回～第12回</td><td>関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究2</td></tr> <tr><td>第13回～第14回</td><td>関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究3</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ（縄）</td></tr> </table>			第1回	看護技術の条件について	第2回～第3回	温罌法ケアのエビデンスの構築について	第4回～第5回	関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス1	第6回～第7回	関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス2	第8回～第9回	腰背部温罌法ケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究	第9回～第10回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究1	第11回～第12回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究2	第13回～第14回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究3	第15回	まとめ（縄）
第1回	看護技術の条件について																				
第2回～第3回	温罌法ケアのエビデンスの構築について																				
第4回～第5回	関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス1																				
第6回～第7回	関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス2																				
第8回～第9回	腰背部温罌法ケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究																				
第9回～第10回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究1																				
第11回～第12回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究2																				
第13回～第14回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究3																				
第15回	まとめ（縄）																				
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）																				
参考書 テキスト等	Bulechek(1999): Nursing Intervention, Effective Nursing Treatments, 3rd Ed. Saunders 早川和生監訳（2004）：看護介入：NICから精選した43の看護介入，医学書院 Snyder(1992): Independent Nursing Interventions, Delmer Pub. 日本看護技術学会誌、聖路加看護学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する																				
授業外学習の内容	関心のある看護技術について文献検討をし、現時点でのエビデンスについて発表する。また関心のある看護技術の開発とエビデンス構築に向けた研究の実際について発表する。文献検索方法を熟知しておくこと。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。																				

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 看護技術学領域																
科目名	看護技術学特論Ⅱ	英文名	Advanced Nursing Art and Science II														
担当者	縄 秀志																
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位																
当該科目の目的	講義目的	看護技術のエビデンスの構築に向けた介入評価研究を実施するうえで有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。介入評価研究における倫理的問題、OUTCOME指標の作成、データ分析方法および看護モデルの構築について学ぶ。															
	到達目標	看護技術のエビデンスの構築に向けた介入評価研究を実施するうえで有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて理解できる。															
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>概念分析について（Rogersの概念分析）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>Comfortについての概念分析</td></tr> <tr><td>第3回～第8回</td><td>関心のある概念についてのミニ概念分析</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>サブストラクションについて</td></tr> <tr><td>第11回～第12回</td><td>関心のある介入評価研究におけるサブストラクション1</td></tr> <tr><td>第13回～第14回</td><td>関心のある介入評価研究におけるサブストラクション2</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ（縄）</td></tr> </table>			第1回	概念分析について（Rogersの概念分析）	第2回	Comfortについての概念分析	第3回～第8回	関心のある概念についてのミニ概念分析	第9回	サブストラクションについて	第11回～第12回	関心のある介入評価研究におけるサブストラクション1	第13回～第14回	関心のある介入評価研究におけるサブストラクション2	第15回	まとめ（縄）
第1回	概念分析について（Rogersの概念分析）																
第2回	Comfortについての概念分析																
第3回～第8回	関心のある概念についてのミニ概念分析																
第9回	サブストラクションについて																
第11回～第12回	関心のある介入評価研究におけるサブストラクション1																
第13回～第14回	関心のある介入評価研究におけるサブストラクション2																
第15回	まとめ（縄）																
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）																
参考書 テキスト等	Rodgers(2000): Concept Development in Nursing, 2nd Ed. Saunders 日本看護技術学会誌、聖路加看護学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する																
授業外学習の内容	関心のある概念について概念分析を行い発表する。関心のある介入評価研究についてサブストラクションを作成し、発表する。対話形式の授業なのでディスカッションには積極的に参加すること。																

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 看護技術学領域		
科目名	看護技術学演習 I	英文名	Seminar I : Advanced Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志、武田 貴美子		
時期・単位	看護学専攻 1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	注目すべき看護現象を記述し、その現象の中にどのような患者・家族の健康課題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを抽出し、注目した看護技術の条件（技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性）について文献とディスカッションを通して検討する。	
	到達目標	注目した看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたらすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について明確にできる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回～第 3 回	注目すべき看護現象を記述し、その現象の中にどのような患者・家族の健康課題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する	
	第 4 回～第 6 回	関心のある看護技術についての文献検討	
	第 7 回～第 9 回	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする	
	第 10 回～第 12 回	関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンスを明らかにする	
	第 13 回～第 15 回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究の方向性を明らかにする	
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート(70%)		
参考書 テキスト等	看護技術学特論 I に準ずる		
授業外学習の内容	看護技術学特論 I で取り上げた看護技術について文献を詳細にクリティークし発表する。対話形式の授業なのでディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 看護技術学領域		
科目名	看護技術学演習 II	英文名	Seminar II :Advanced Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志、武田 貴美子		
時期・単位	看護学専攻 1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。また、注目した看護技術における介入評価研究におけるサブストラクションを作成し、技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。	
	到達目標	1. 注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析ができる。 2. 注目した看護技術における介入評価研究を元にサブストラクションが作成できる。 3. 技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。	
当該科目の内容・計画	第 1 回～第 5 回	注目すべき看護現象の記述を元に看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う	
	第 6 回～第 10 回	注目した看護技術における介入評価研究を元にサブストラクションを作成する	
	第 11 回～第 15 回	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート(70%)		
参考書 テキスト等	看護技術学特論 II に準ずる		
授業外学習の内容	看護技術学特論 II で取り上げた概念について概念分析を行い発表する。また看護技術学特論 II で取り上げた看護技術における介入評価研究を元にサブストラクションを作成し発表する。対話形式の授業なのでディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 看護技術学領域		
科目名	看護技術学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ:Advanced Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志		
時期・単位	看護学専攻 2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、研究倫理等）を検討し、研究計画書を作成し、プレテストを実施し、計画書を完成する。	
	到達目標	看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法を検討し、プレテストを経て、研究計画書が完成できる。	
当該科目の内容・計画	2年次4月から5月に開講する 第1回～第5回 研究計画書の作成（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化） 第6回～第10回 プレテストの実施 第11回～第15回 研究計画書の修正		
評価方法	研究計画書（100%）		
参考書 テキスト等	特に指定しない		
授業外学習の内容	定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6月までには承認が得られるように準備をする。研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。		

科目区分	健康推進科学分野 健康推進科学専門科目 看護技術学領域		
科目名	看護技術学特別研究	英文名	Seminar for Master's Thesis on Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志		
時期・単位	看護学専攻 2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて研究計画書に沿ってデータ収集を行い、客観的・多角的なデータ分析を経て、結果を示し、看護実践への示唆・貢献について検討し、看護技術学における新しい知識の創造に値する修士論文を作成する。	
	到達目標	研究計画書に沿って研究を実施し、看護技術学における新しい知識の創造に値する修士論文を作成できる。	
当該科目の内容・計画	2年次7月から1月に開講する 7～9月 データ収集 10～11月 データ分析、中間発表の準備 12～1月 修士論文作成		
評価方法	修士論文（100%）		
参考書 テキスト等	特に指定しない		
授業外学習の内容	定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位取得はできない。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅰ	英文名	Advanced Theory of Midwifery I
担当者	今関 節子、竹内 正人、大石 時子		
時期・単位	1年前期 必修1単位 (15時間)		
当該科目の目的	講義目的	性と生殖のケアにかかわる専門家としての学び方、進み方、保健、社会・文化的役割期待を自覚し、専門家としての倫理に基づき助産学独自の領域を開発し、構築していく方途を探索し、明らかにすることを目的とする。	
	到達目標	助産師資格取得領域： ①助産学独自の対象へのアプローチ、ケア特質について、EBPMのルーツ、実践開発領域学生の経験より学び、今後の助産師としての目指す道を文化的、歴史的背景も含めて計画し、説明出来る。	
当該科目の内容・計画	第1回 種の存続への過程で女性があみだした未だ性 <sup>注</sup> ケア討論 (今関) 第2回 EBPMのルーツと産科実践への導入 (今関) 第3回 ポートフォリオ手法の活用と各自のポートフォリオ (今関) 第4回 助産学独自の観察視点と意義 (今関) 第5回 日本における開業・施設内助産師有機的連携と地域貢献戦略 (今関) 第6回 女性にとって望ましい出産環境 (総論) (竹内) 第7回 女性にとって望ましい出産環境 (事例の紹介と考察) (竹内) 第8回 産科・助産をめぐるトピックスと助産師の挑戦 (ICMより) (大石)  注) 男性の一代性 (森崎和江) に対して助成と次世代における未来に対して用いた		
評価方法	レポート： 将来の目指す方向と本課程における自己の学習計画100%		
参考書 テキスト等	テキスト：①成田伸:助産師基礎教育テキスト1 ②助産師業務要覧第2版 (基礎編、実践編)、看護協会出版会 参考図書：①鈴木敏江:ポートフォリオ評価とコーチング手法.医学書院 ②木村尚子:出産と生殖をめぐる攻防.大月書店 ③ジェームズC.コリンズ:ビジョナリーカンパニー,日経BP社 ④その他資料で提供		
授業外学習の内容	1. 種の存続にかかわるあらゆる動植物の中から各自一つの種を選んで、その過程を映像、書物、体験・観察、物語のどこからでもよいが記述し、それを通して種の存続とその努力にかかわる各自の概念をまとめる、授業終了時提出する。 2. 各自のポートフォリオを作成し、課程を修了まで継続していく。 3. 群馬県の周産期医療体制整備計画について調べ、第7回の授業で戦略として実際の有機的な位置づけに提案していただく。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅱ(ウイメンズヘルス)	英文名	Advanced Theory of Midwifery II (Women's Health)
担当者	久保田 隆子		
時期・単位	1年後期 必修2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。	
	到達目標	1. 思春期女性に対する基本的姿勢と、心身の理解の基に相談や、適切な対応ができる。 2. 男女のセクシュアリティの特性を理解し、健全な性の発達、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3. 性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題、問題対応について説明出来る。 4. グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォローシップを発揮できる。	
当該科目の内容・計画	第1回 思春期女性の支援(ビルを含む) (久保田) 第2回 思春期女性の支援グループワーク (久保田) 第3回 女性とパートナーに対する支援 (久保田) 第4回 女性とパートナーに対する支援:事例展開とグループワーク (久保田) 第5回 女性とパートナーに対する支援:事例展開とグループワーク (久保田) 第6回 不妊の悩みを持つ女性の現状と事例討論 (久保田) 第7回 不妊女性を取り巻く家族・社会と事例の討論 (久保田) 第8回 不妊の悩みを持つ女性に対する支援グループワーク (久保田) 第9回 不妊の女性と家族に対する支援と社会に対する啓蒙まとめ発表 (久保田) 第10回 中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴 (久保田) 第11回 中高年女性に対する支援:グループワークとまとめ (久保田) 第12回 性感染症予防と支援(子宮頸がん予防とワクチン啓蒙) (久保田) 第13回 性感染症予防と支援グループワークとまとめ (久保田) 第14回 女性と月経、月経障害について (久保田) 第15回 月経障害に対する支援と教育グループワーク (久保田)		
評価方法	筆記試験70% レポート30%		
参考書 テキスト等	テキスト：①吉沢豊予子:助産師基礎教育テキスト2,看護協会出版会 ②村本淳子他編:ウイメンズヘルス概論女性の健康と看護,ヌーベルヒロカワ 参考書：③ウイメンズヘルス事典-女性のからだところガイド,日本母性衛生学会		
授業外学習の内容	受胎調節実施指導員としての内容と自助グループについての発表会を行う。企画書作成は助産師活動の参考になるような内容として作成すること。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目	
科目名	助産学特論Ⅲ(助産管理)	英文名 Advanced Theory of Midwifery Ⅲ (Midwifery Management)
担当者	寺田 眞廣、村上 睦子	
時期・単位	1年後期 必修1単位 (30時間)	
指定規則	別表2:「助産管理」	
当該科目の目的	講義目的	助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務に関する法律を理解し説明できる。</li> <li>2. 助産管理の方法を理解し、説明できる。</li> <li>3. 安全管理のあり方を理解し、説明できる。</li> <li>4. 自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の側面における姿勢を説明できる。(各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理)</li> </ol>
当該科目の内容・計画	第1回～第2回 助産業務・管理の概念(村上) 第3回～第5回 助産業務管理過程の方法と実際(寺田) 第6回～第7回 助産業務に関連する法規(法的責務)(寺田) 第8回～第9回 助産業務に関連する法規(法的施策)(寺田) 第10回 助産業務管理の実際(病産院)(村上) 第11回 助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(村上) 第12回～第13回 周産期における安全管理・危機管理(寺田) 第14回 助産師と災害対策(寺田) 第15回 助産師のキャリア形成、後輩助産師の育成(寺田)	
評価方法	筆記試験50% レポート「私の想定する施設と助産管理の姿勢」50%	
参考書 テキスト等	テキスト:①我部山・他:助産学講座10,医学書院 ②助産業務要覧,看護協会出版会 ③成田:助産師基礎教育テキスト3,看護協会出版会 参考書:看護六法(平成25年版),新日本法規	
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。	

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目	
科目名	助産学特論Ⅳ(開業・院内助産)	英文名 Advanced Theory of Midwifery IV (Independent Practice of Midwifery)
担当者	新野 由子、西山 信之、宮下 美代子	
時期・単位	1年後期 必修1単位 (30時間)	
指定規則	別表2:「助産管理」	
当該科目の目的	講義目的	地域において助産所を開業したり、院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点をもちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。
	到達目標	助産師資格取得領域学生: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営や、経営戦略を理解し説明ができる。</li> <li>2. マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。</li> <li>3. リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。</li> <li>4. 行政への働きかけ(産後母子訪問システム等の実績等)、NPO法人の取得・運営を理解し、発表会にも出席し、説明できる。</li> <li>5. 助産に関わる各種ガイドラインを理解し説明できる。</li> </ol>
当該科目の内容・計画	第1回 助産師の自律と多職種協働(内外)のあり方(新野) 第2回 助産師の自律と人間関係の調整(新野) 第3回 病院における経営と経営戦略について(西山) 第4回 病院における経営戦略の実際(西山) 第5回 助産所における経営と経営戦略(宮下) 第6回 助産所における経営戦略の実際(宮下) 第7回 医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開(新野) 第8回 医療事故防止、感染予防対策、災害対策等(新野) 第9回 院内助産システムと助産師の自律について(新野) 第10回 助産師の自律(パースセンターの設立経験から)(新野) 第11回 行政への働きかけ(産後母子訪問システムの実績等)(新野) 第12回 NPO法人の取得(新野) 第13回 周産期に関連する様々なガイドラインー産婦人科診療ガイドライン(新野) 第14回 早期母子接触実施の留意点(新野) 第15回 エビデンスに基づく助産ガイドラインー分娩期2012(新野)	
評価方法	実践開発領域:グループワーク;リーダーシップ・発表30%, 具体的企画書70% 助産師資格取得領域:グループワーク;フォローアップ30%, 筆記試験70%	
参考書 テキスト等	ジェームズC.コリンズ:ビジョナリーカンパニー,日経BP社 その他資料で提供	
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。</li> <li>2. 講義中の討論で自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。</li> </ol>	

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産における補完代替医療	英文名	Complementary and Alternative Care in Midwifery
担当者	今関 節子、山西 加織		
時期・単位	2年後期 選択2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人一人の状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に周産期に焦点をあててその目的、適用、実際に学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたっての安全性、倫理性の確認倫理が説明出来る。</li> <li>2. 各種代替医療を正しく理解し、十分な習得の元で適切に実施できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 補完代替医療とリスクマネージメント (今関) 第2回 ヨガの基礎理論 (山西) 第3回 ヨガの実際 (山西) 第4回 妊産婦エクササイズの理論 (今関) 第5回 妊産婦エクササイズの実践 (今関) 第6回 マッサージ法 (今関) 第7回 呼吸法 (今関) 第8回 身体的リラクセス法 (今関) 第9回 心理的リラクセス法 (今関) 第10回 アロマ・ハーブに使われる精油 (今関) 第11回 女性のライフサイクルとアロマセラピー (今関) 第12回 クラニオセイクラルセラピー(CST)(頭蓋仙骨療法)の基礎理論 (今関) 第13回 クラニオセイクラルセラピーの実践 (今関) 第14回 各種電法 (今関) 第15回 各種電法の適用 (今関)		
評価方法	(各方法を選択して) レポート100%		
参考書テキスト等	参考書：①鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー，主婦の友社 ②松本清一・他：妊産婦体操の理論と実際，全国保健センター連合会 ③今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療，金芳堂 ④その他その都度資料を配布する		
授業外学習の内容	一つの補完代替医療の技術を選んで、学習会・講習会・教室に自主的に参加し、学級活動等で考察を含めて披露し、自分の一つの助産技術として深めていくことに繋げる。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	女性のフィジカルアセスメント	英文名	Physical Assessment of Women
担当者	久保田 隆子、児玉 直樹		
時期・単位	1年前期 必修2単位 (60時間)		
指定規則	別表2：「助産診断技術学」		
当該科目の目的	講義目的	女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの観察項目、技法、評価について説明出来る。</li> <li>2. 女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回～第2回 助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義 (久保田) 第3回～第4回 思春期女性の身体の観察法 (久保田) 第5回～第6回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの方法 (久保田) 第7回～第8回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの実践 (久保田) 第9回～第10回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察法 (久保田) 第11回～第12回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察の実践とアセスメント (久保田) 第13回～第14回 婦人科的診察の実践 (久保田) 第15回～第16回 婦人科的診察・検体採取法、アセスメントの実践 (久保田) 第17回～第18回 超音波診断装置による基礎的操作用の理論 (児玉) 第19回～第20回 超音波診断装置による基礎的操作用と検査一般・アセスメントの実践 (児玉) 第21回～第22回 乳房の診察法の基礎理論 (久保田) 第23回～第24回 乳房の診察法とアセスメントの実践 (久保田) 第25回～第26回 骨盤と骨盤底の基礎的理解 (久保田) 第27回～第28回 出産と骨盤・骨盤底の診察とアセスメント (久保田) 第29回～第30回 女性の加齢による骨盤底の診察・アセスメントとケア (久保田)		
評価方法	実技試験60% 筆記試験40%		
参考書テキスト等	参考書：①大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 ②吉沢豊子：女性の健康とケア，日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	演習が中心となる科目なので、助産診断技術の向上の為に説明ができるような知識を深めること。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	産婦人科医学診断	英文名	Gynecology Diagnosis
担当者	篠崎 博光、曾田 雅之、中村 和人		
時期・単位	1年前期 選択1単位(15時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。</li> <li>2. 婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。</li> <li>3. 女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 産婦人科診療 (篠崎) 第2回 女性性器の構造・女性の性機能 (篠崎) 第3回 月経とその異常 (篠崎) 第4回 婦人科検査 (篠崎) 第5回 女性性器の疾患① (中村) 第6回 女性性器の疾患② (中村) 第7回 加齢と疾患、ホルモン療法① (曾田) 第8回 加齢と疾患、ホルモン療法② (曾田)		
評価方法	筆記試験100%		
参考書 テキスト等	テキスト：①岡井 崇：標準産科婦人科学 (STANDARD TEXTBOOK)，医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	新生児学	英文名	Neonatology
担当者	丸山 憲一		
時期・単位	1年前期 必修1単位(30時間)		
指定規則	別表2：「基礎助産学」		
当該科目の目的	講義目的	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を習得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。</li> <li>2. 新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。</li> <li>3. ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。</li> <li>4. 緊急時に対応できる知識を理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 新生児学総論、ハイリスク新生児の評価 第2回 新生児診断学 第3回 新生児の生理、発達 第4回 新生児の養護と管理 (ハイリスク新生児、NICU入院児を含む) 第5回 体温調節と保温 第6回 栄養の基礎と診療 第7回 水-電解質バランス 第8回 内分泌系・代謝系の異常 第9回 内分泌系・代謝系の異常と管理 第10回 呼吸器系の生理と診療 第11回 循環器系の基礎と診療 第12回 黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療 第13回 免疫系と感染 第14回 中枢神経系の障害と診療 第15回 先天異常と遺伝、主要疾患の病態と生理		
評価方法	筆記試験100%		
参考書 テキスト等	テキスト：①仁志田博司：新生児学入門(第4版)，医学書院		
授業外学習の内容			

科目区分		助産学分野	助産師養成領域専門科目	助産学共通科目	
科目名	周産期ハイリスク論Ⅰ			英文名	High risk of Perinatal Complications Ⅰ
担当者	伊藤 理廣、竹中 恒久				
時期・単位	1年後期 必修1単位(30時間)				
指定規則	別表2:「基礎助産学」				
当該科目の目的	講義目的	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。			
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べるができる。</li> <li>2. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。</li> <li>3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。</li> </ol>			
当該科目の内容・計画	第1回 胎児の発生と出生前診断(伊藤理) 第2回 胎児の発生と出生前診断(伊藤理) 第3回 不妊症(伊藤理) 第4回 妊娠期の異常と診断-異所性妊娠、流産、人工妊娠中絶、死産、PIHと子癇、GDM(竹中) 第5回 前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離(竹中) 第6回 合併症:甲状腺機能異常、高血圧、糖尿病(竹中) 第7回 合併症:子宮筋腫、心疾患、感染症(竹中) 第8回 胎児の異常:多胎、胎児発育不全(竹中) 第9回 分娩期の異常と診断. 娩出力:陣痛の異常と分娩誘導、クリステル胎児圧出法、VBAC(竹中) 第10回 胎児:胎児位置異常(骨盤位分娩)回旋異常、胎児機能不全(竹中) 第11回 産道:会陰裂傷・切開、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術(竹中) 第12回 出血:弛緩出血、血栓症、産科ショック、子宮内反、産褥熱(竹中) 第13回 妊産褥婦と薬物:妊娠、分娩、授乳に影響する薬剤(竹中) 第14回 妊産褥婦と薬物:産科麻酔(竹中) 第15回 母子免疫(竹中)				
評価方法	筆記試験 100%				
参考書 テキスト等	テキスト①荒木勤:最新産科学(異常編), 文光堂 ②岡井崇・他編:標準産科婦人科学(第4版), 医学書院				
授業外学習の内容					

科目区分		助産学分野	助産師養成領域専門科目	助産学共通科目	
科目名	周産期ハイリスク論Ⅱ			英文名	High risk of Perinatal Complications Ⅱ
担当者	高木 剛、伊藤 雄二、丸山 憲一				
時期・単位	1年後期 必修2単位(60時間)				
指定規則	別表2:「基礎助産学」				
当該科目の目的	講義目的	周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した医療補助技術として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。			
	到達目標	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。			
当該科目の内容・計画	第1回~第2回 胎児の評価と診断(超音波診断)理論(高木) 第3回~第4回 胎児の評価と診断(超音波診断)基本操作演習(高木) 第5回~第6回 分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技(高木) 第7回~第8回 産道の異常:会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論(高木) 第9回~第10回 産道の異常:会陰縫合術基本の実際(高木) 第11回~第12回 産道の異常:会陰縫合術の実際(高木) 第13回~第14回 産道の異常:会陰縫合術実際と学生相互評価討論(高木) 第15回~第16回 分娩時の出血とその対処(胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血)(伊藤雄) 第17回~第18回 産科救急④(産科ショック、薬物療法)(伊藤雄) 第19回~第20回 産科救急④(産科ショック、帝王切開術を含む)(伊藤雄) 第21回~第22回 娩出力の異常③:吸引・鉗子分娩とその介助(伊藤雄) 第23回 娩出力の異常③:骨盤位分娩とその介助(伊藤雄) 第24回~第25回 新生児蘇生法の基礎理論(丸山) 第26回~第27回 新生児蘇生法の実技(丸山) 第28回~第29回 新生児蘇生法の実技演習(丸山) 第30回 新生児蘇生法相互評価討論(丸山)				
評価方法	筆記試験60% 演習レポート40%				
参考書 テキスト等	テキスト:①荒木勤:最新産科学(異常編), 文光堂 ②岡井崇・綾部琢哉:標準産科婦人科学(第4版), 医学書院 参考書:①馬場一憲:基礎からわかる産婦人科超音波診断, 東京医学社 ②藤森敬:胎児心拍数モニタリング講座(第2版), メディカ出版 ③進純郎・堀口成子:正常分娩の助産術-トラブルへの対応と会陰裂傷縫合(フラッシュアップ助産学), 医学書院 ④田村正徳:日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく新生児蘇生法テキスト(第2版), メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子:産科の必須手技ベスト58-本当に知りたかった技とコツ, メディカ出版				
授業外学習の内容	胎児超音波検査と胎児心拍数モニタリングで用いられる基礎的な用語の意味を理解しておくこと。				

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	地域母子保健実習	英文名	Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年前期 選択1単位 (45時間)		
当該科目の目的	講義目的	地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を見学、演習等様々な形で学び、より有効で新たな具体的転換の仕組みを構築し、実践活動能力の基礎を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域診断の基本を理解し、説明ができる。</li> <li>2. 地域のアセスメントをし、地域の課題を見いだせる。</li> <li>3. 地域で実践されている母子への健康診査の方法や相談事業等を理解する。</li> <li>4. 事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1日 ・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス 第2日 ・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画 第3日 ・行政や地域で行われている学級等への参画 第4日 ・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画 第5日 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画 第6日 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画 第7日 ・グループワーク：実際のクラスの企画から評価まで学内演習、まとめ		
評価方法	レポート50% 演習50%		
参考書テキスト等	参考書：①群馬県保健要覧25年度版、群馬県保健予防課		
授業外学習の内容	事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 【備考】1週間(5日間)＝45時間		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策論	英文名	Maternal and Child Health Policy
担当者	新野 由子、福島 富士子		
時期・単位	1年後期 選択1単位 (15時間)		
当該科目の目的	講義目的	政策の基礎的理論に基づいて、次世代の家族の健全な発展を目指した母子保健を推進していくための方策を学ぶ。実践的事例を通して方策の手法、維持、推進の過程を学ぶ。その上で、新たな課題を探索し、それに対する企画と実践につなげる政策を検討する。さらに、母子保健の課題解決のための助産師のリーダーシップのあり方を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の母子保健の現状と動向について説明できる。</li> <li>2. 母子保健行政の仕組みや制度、施策に関する知識に基づき課題を説明できる。</li> <li>3. 母子保健のニーズ把握、及びサービス提供に必要な関係機関や関係職種との連携・調整・協働について課題を含めて説明できる。</li> <li>4. 母子保健を推進していくための助産師の役割や課題を説明できる。</li> <li>5. 母子保健を推進していくための助産師のリーダーシップのあり方を説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 母子保健施策の歴史と変遷 近代まで (新野) 第2回 母子保健施策の歴史と変遷 現代 (新野) 第3回 母子保健の概念、周産期トピックス (新野) 第4回 出産の医療化とその功罪、我が国の動向 (新野) 第5回 出産の医療化とその功罪、諸外国の動向 (新野) 第6回 母子保健の現状と動向、制度と施策 (福島) 第7回 地域母子保健計画と事業への参画 (福島) 第8回 政策決定への参画 (新野)		
評価方法	レポート100%		
参考書テキスト等	参考書：①大林道子：助産師の戦後、勁草書房 ②戸田律子訳：WHOの59カ条お産のケア実践ガイド、農文協 ③松岡悦子他編：世界の出産、勉誠出版 ④中山まき子：身体をめぐる政策と個人、勁草書房		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。</li> <li>2. 講義中の討論において、自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。</li> </ol>		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策演習	英文名	Advanced Practice of Maternal and Child Health Policy
担当者	新野 由子		
時期・単位	1年後期 選択2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	母子保健を推進するために母子保健のあり方を俯瞰し、政策の立案を行う国や地方議員、政策を施行する国や地方の行政機関、専門職団体などの具体的な活動について学ぶ。母子保健の現在の課題を見だし、解決に向けた対策の立案と助産実践ができる能力を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政策立案や法律の執行する立場の活動方法を理解し、説明できる。</li> <li>2. MFICU, NICU, GCUの理念を基に、周産期搬送コーディネートの役割を説明できる。</li> <li>3. 専門職団体の活動のあり方、社会への責任、サービス提供のための質の向上のための方策に基づき、説明できる。</li> <li>4. 政策を変えていく方法を理解し、自分なりの解決策を企画し発表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	事前準備 第1～3日 第4日	インターンシップに向けての情報収集、目的設定、先方との情報交換 自己のインターンシップに向けての実施企画と相談・先方との交渉 厚生労働省、都道府県や市町村行政、国会議員、地方議員専門職団体、周産期搬送コーディネートの現場等でのインターンシップオリエンテーション インターンシップの実際 (1日9時間) インターンシップで学んだことのグループ討議とまとめ、発表 (3時間)	
評価方法	グループワーク・発表40% 筆記試験60%		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> <li>①秋吉貴雄・他：公共政策学の基礎、有斐閣ブックス</li> <li>②小熊英二：社会を変えるには、講談社現代新書</li> </ol>		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が興味のある場合はどこなのか、事前によく考えておくこと。</li> <li>2. インターンシップに選んだ先方との交渉など、事務的な作業も積極的に行うこと。</li> </ol>		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 基礎助産学		
科目名	助産学概論	英文名	Introduction to Midwifery
担当者	今関 節子、寺田 眞廣		
時期・単位	1年前期 必修2単位 (60時間)		
指定規則	別表2：「基礎助産学」		
当該科目の目的	講義目的	助産とは何かについて、助産の本質、意義、歴史、対象について理解し、専門職としての助産師の業務・責務・役割を認識して、深められる。また、国際的視点から見た助産師の活動、倫理、教育、研究についての理解を通して、各自の中に専門職としての助産師像を持てるようにする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 独占業務である助産について本質と意義を、さまざまな根拠に基づいて説明できる。</li> <li>2. 助産学を支える理論や研究について理解し、内外の研究を活用できる。</li> <li>3. 助産師の業務・責務・役割について法的、社会通念的に説明できる。</li> <li>4. 助産と助産師の歴史や文化について、日本独自や世界に共通したとらえ方や要因について説明出来る。</li> <li>5. 各国助産師の活躍や国際助産師の業務、倫理、教育について説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>(寺田担当内容のテーマ)</p> <p>第1回 助産の概念 (寺田)          第2回～第3回 助産師と法律、職制 (寺田)          第4回～第5回 助産師と法律、身分 (寺田)          第6回～第7回 助産師と倫理 (生命倫理) (寺田)          第8回～第9回 助産師と倫理 (職業倫理) (寺田)          第10回～第11回 助産と文化 (寺田)          第12回～第13回 子育て文化 (寺田)          第14回～第15回 諸外国での助産師の活動と教育 (寺田)</p> <p>(今関担当内容のテーマ)</p> <p>第1回 助産に関係する概念 (今関)          第2回～第3回 助産学を構成する理論、助産学に関連する学問領域と探求方法 (今関)          第4回～第5回 助産学に関連する理論、研究の考え方、研究と助産師 (今関)          第6回～第7回 助産学独自の観察視点と意義 (今関)          第8回～第9回 助産学独自の観察視点と意義に関する討論と発表 (今関)          第10回～第11回 助産の歴史 (古代から江戸時代、明治・大正・昭和初期) (今関)          第12回～第13回 助産の歴史 (第二次大戦後) (今関)          第14回～第15回 助産師教育の変遷 (今関)</p>		
評価方法	筆記試験80% 出席20%		
参考書テキスト等	テキスト：①加藤尚美・他：基礎助産学第1巻、助産学概論、日本助産師会出版 参考書：①大林道子：助産師の戦後、勤草書房 ②看護六法、新法規出版 ③その他講義ごとに資料を準備する		
授業外学習の内容	大野明子：医療の進歩における部分最適と全体最適、農協共済総合研究所第63号 ( <a href="http://www.jkri.or.jp/">http://www.jkri.or.jp/</a> ) を読んで、「現代においてなぜ自然なお産」を求めると考察し第8～9回の討論に備える。(今関)		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	妊娠期の助産診断技術学	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Pregnancy
担当者	久保田 隆子、行田 智子		
時期・単位	1年前期 必修2単位 (60時間)		
指定規則	別表2:「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	妊婦と胎児の経過を理解し、その健康状態を診断し、ハイリスク徴候をアセスメントするために必要な知識を習得する。また妊娠期の母性と胎児に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の生理的経過と異常徴候発見のためのスクリーニングを説明できる。</li> <li>2. 妊婦診察のための基本的な技術を実践できる。</li> <li>3. 妊婦の助産診断過程を展開し、必要な支援と健康教育を実践できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 女性生殖器の解剖と機能 (久保田)</p> <p>第2回 生殖と内分泌、妊娠の生理 (久保田)</p> <p>第3回 妊娠の経過とスクリーニング (含 母子の栄養) (久保田)</p> <p>第4回 診断の概念と助産診断の位置づけ (久保田)</p> <p>第5回～第6回 妊娠経過と助産過程の関係について (久保田)</p> <p>第7回～第8回 妊娠経過に即した情報収集の方法: 妊婦診察のための基本技術 (久保田)</p> <p>第9回～第10回 妊婦診察のための基本技術演習 (久保田)</p> <p>第11回～第12回 妊娠期助産診断のためのアセスメントの方法について (久保田)</p> <p>第13回～第14回 助産診断における妊婦のセルフケア支援のためのアセスメント (久保田)</p> <p>第15回～第16回 助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント (久保田)</p> <p>第17回～第18回 妊娠期ケアプランの立案について (久保田)</p> <p>第19回～第20回 事例の展開: 講義とグループワークの中で助産計画立案 (久保田)</p> <p>第21回～第22回 事例の展開: グループワークの中で展開し発表する (久保田)</p> <p>第23回～第24回 保健指導技術 (個人、集団) (行田)</p> <p>第25回～第26回 出産準備教育のための助産技法: アクティブバース、産痛緩和 (久保田)</p> <p>第27回～第28回 出産準備教育のための助産技法: 妊娠中の教育支援と乳房ケア (久保田)</p> <p>第29回～第30回 診断に基づく健康教育について: 予防的教育指導案をグループで展開 (久保田)</p>		
評価方法	筆記試験50% 実技・レポート50%		
参考書 テキスト等	テキスト: ①森恵美: 助産基礎教育テキスト4, 看護協会出版会, NANDA-1看護診断, 医学書院 参考書: ①プリンプル産科婦人科学, メディカルビュー社 ②最新産科学 (正常編・異常編) 文光堂		
授業外学習の内容	健康教育ができることを目的としている。教材作成やプレゼンテーション能力の育成の為に、知識、言動、態度等についてもトレーニングを深めること。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	分娩期の助産診断技術学 I	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum I
担当者	久保田 隆子		
時期・単位	1年前期 必修1単位 (30時間)		
指定規則	別表2:「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	産婦と胎児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識と技術を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩の機転と分娩進行におけるアセスメントについて説明できる。</li> <li>2. 分娩進行を診断するための基本的な診察技術を実践できる。</li> <li>3. 産婦に対するケアプランを立案できる。</li> <li>4. 正常な分娩経過を促すための支援を説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 分娩期、産道の理解 (久保田)</p> <p>第2回 分娩期、産道の理解と分娩メカニズム (久保田)</p> <p>第3回 分娩経過と助産過程の関係について (久保田)</p> <p>第4回 分娩経過に即した情報収集の方法: 産婦診察のための基本技術 (久保田)</p> <p>第5回 分娩進行の診断技術 (内診、外診、CTG) の講義と実際 (久保田)</p> <p>第6回 分娩進行の診断技術 (内診、外診、CTG) の演習 (久保田)</p> <p>第7回 分娩期助産診断のためのアセスメントの方法について講義と演習 (久保田)</p> <p>第8回 産婦事例に対するケアプランの立案について講義と演習 (久保田)</p> <p>第9回 産婦事例に対する助産診断とケアプランについて: グループで展開 (久保田)</p> <p>第10回 産婦事例に対する助産診断にもとづく助産の展開: グループで実施 (久保田)</p> <p>第11回 正常経過逸脱予測事例の助産診断とケアプランについて: グループで展開 (久保田)</p> <p>第12回 正常経過逸脱予測事例のケアプランと助産の実際: グループで展開 (久保田)</p> <p>第13回 正常経過逸脱予測事例の助産の実際: グループ発表と討論 (久保田)</p> <p>第14回 助産診断に基づくハイリスク産婦ケアの立案 (グループ展開) (久保田)</p> <p>第15回 助産診断に基づくハイリスク産婦ケアの立案の発表・討論とまとめ (久保田)</p>		
評価方法	グループ討論への参加度60% データ収集とアセスメント実技40%		
参考書 テキスト等	テキスト: ①町浦美智子: 分娩期の診断とケア, 助産師基礎教育テキスト5, 日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	事例を用いての助産診断を妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の各期毎に事例発表を行う。周産期に必要な用語を調べておくこと。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	分娩期の助産診断技術学Ⅱ	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in IntrapartumⅡ
担当者	久保田 隆子、新井 基子		
時期・単位	1年前期 必修1単位 (30時間)		
指定規則	別表2:「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	助産診断過程に基づいて、正常分娩を目指した産婦とその家族への援助に必要な知識と技術を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仰臥位による分娩の介助がスムーズに展開できる。</li> <li>2. 産婦の助産診断過程に基づき、それぞれの体位に対応した助産技術の特徴を説明出来る。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 助産の概念 (久保田) 第2回 助産技術の歴史 (久保田) 第3回 助産技術の展開 (久保田) 第4回 分娩介助法 (家族を含め事例を用いた仰臥位産) の展開 (介助者、助手) (新井) 第5回 分娩介助法 (家族を含め事例を用いた仰臥位産) の展開 (助手業務) (新井) 第6回 分娩介助法 (家族を含め事例を用いた仰臥位産) のグループワーク 1 (新井) 第7回 分娩介助法 (家族を含め事例を用いた仰臥位産) のグループワーク 2 (新井) 第8回 分娩介助法 (家族を含め事例を用いた仰臥位産) のグループワーク 3 (新井) 第9回 助産の理論と技術 (アクティブバース) (久保田) 第10回 助産の理論と技術 (水中出産) (久保田) 第11回 助産の理論と技術 (スクワッティング) (久保田) 第12回 助産の理論と技術 (側臥位分娩) (久保田) 第13回 助産の理論と技術 (座位分娩) (久保田) 第14回 助産における体位と環境にかかわる討論とまとめ (久保田) 第15回 分娩介助法 (家族を含め事例を用いた仰臥位産) の個人評価 (久保田)		
評価方法	実技70% レポート30%		
参考書 テキスト等	テキスト: 我部山キヨ子/武谷雄二: 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期 医学書院 参考書: ①山本あい子: 助産概論, 助産師基礎教育テキスト, 日本看護協会出版会 ②町浦美智子: 分娩期の診断とケア, 助産師基礎教育テキスト, 日本看護協会出版会 ③進純郎: 分娩介助学 第2版, 医学書院 ④岩田塔子: 体位別フリースタイル分娩介助法, メディカ出版 ⑤中根直子: 分娩介助, ベルネイタルケアノート, メディカ出版 ⑥高崎健康福祉大学分娩介助手順 他		
授業外学習の内容	①授業で学んだ知識や助産技術は時間外を利用して必ず復習・トレーニングしておくこと。 ②滅菌操作の基本的な看護技術 (ガウンテクニック、摂子の使い方、手袋) は時間外で練習すること。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	産褥・新生児期の助産診断技術学	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Postpartum and Neonatal
担当者	久保田 隆子、新井 基子		
時期・単位	1年前期 必修2単位 (60時間)		
指定規則	別表2:「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	産婦と新生児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。また、産婦と乳児に対する支援と健康教育に必要な基本的知識、技術を習得する。	
	到達目標	産婦と新生児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。また、産婦と乳児に対する支援と健康教育に必要な基本的知識、技術を習得する。	
当該科目の内容・計画	第1回～第2回 産褥の生理と異常 (久保田) 第3回～第4回 産褥の経過とスクリーニング、産婦のセルフケア支援 (久保田) 第5回～第6回 母子早期接触、分娩想起への支援、家族計画・受胎調節 (久保田) 第7回～第8回 母乳育児支援 (新井) 第9回～第10回 母乳育児支援、出生直後の新生児ケア (新井) 第11回～第12回 新生児のアセスメントとケア (久保田) 第13回～第14回 育児に必要な知識と技術支援 (家庭での新生児ケア) (久保田) 第15回～第16回 育児に必要な知識と技術支援 (家庭での沐浴) (久保田) 第17回～第18回 ハイリスク新生児ケア (久保田) 第19回～第20回 母子愛着障害・児の虐待要因早期発見 (久保田) 第21回～第22回 産褥母子事例の助産診断過程(グループワーク) (久保田) 第23回～第24回 産褥母子事例の助産診断過程 (グループワーク) まとめと発表・討論 (久保田) 第25回～第26回 乳児の成長・発達とケア (新生児期) (久保田) 第27回～第28回 乳児の成長・発達とケア (久保田) 第29回 幼児の成長・発達とケア (久保田) 第30回 予防接種 (久保田)		
評価方法	筆記試験50% 実技・レポート50%		
参考書 テキスト等	テキスト: ①横尾京子: 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア, 助産師基礎教育テキスト, 日本看護協会出版会 参考書: ①遠藤俊子: ハイリスク妊産婦・新生児ケア, 助産師基礎教育テキスト, 日本看護協会出版会 ②我部山キヨ子/武谷雄二: 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期 医学書院 ③Glenys Boxwell (沢田健/エクランド源雅子): 新生児集中ケアハンドブック, 医学書院 ④仁志田博: 新生児学入門 第4版, 医学書院 ⑤NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会: 母子育児支援スタンダード, 医学書院 ⑥水野克巳、水野典子: 母乳育児支援講座, 南山堂 ⑦その他資料配布		
授業外学習の内容	①授業で学んだ知識や技術は、必ず復習・トレーニングすること。 ②母性看護学で学んだ知識は忘れないように暗記して講義に臨むこと。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 地域母子保健		
科目名	地域母子保健論	英文名	Maternal Child Health in the Community
担当者	新野 由子、福島 富士子		
時期・単位	2年前期 必修1単位 (30時間)		
指定規則	別表2:「地域母子保健」		
当該科目の目的	講義目的	地域における助産師活動を展開するために、国、都道府県、市町村、公益法人、NPOにおける助産師の母子保健活動の歴史的理解、母子保健活動の動向等の理解を基盤とし、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開のプロセス、地域における連携、協働、個別支援、グループ、地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を含めて学ぶとともに、助産師としてのリーダーシップのあり方を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期から一貫した母子と家族に対する健康支援を理解する。</li> <li>2. 母子・家族に関する健康指標と地域特性を踏まえたアセスメントを説明できる。</li> <li>3. 地域の特性や母子の健康レベルに応じた母子への支援を計画し発表できる。</li> <li>4. 多職種協働と連携の必要性を説明でき、実行できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 地域母子保健活動の目的と仕組み(新野)</p> <p>第2回 国、都道府県、市町村、公益法人、NPO等の助産師の母子保健活動の歴史的理解(福島)</p> <p>第3回 地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾(福島)</p> <p>第4回～第5回 妊娠期から一貫した母子とその家族に対する健康支援、母子とその家族に関する健康指標(新野)</p> <p>第6回～第7回 地域特性に関連付けた地区診断の実施(新野)</p> <p>第8回～第9回 地域の母子の健康レベルに応じて、健康診査や相談の技法を用いた新たな支援の試み(新野)</p> <p>第10回～第11回 地域における様々な協働(新野)</p> <p>第12回～第13回 地域組織活動の育成支援等(新野)</p> <p>第14回～第15回 討論とまとめ:あなたの町の母子保健活動(新野)</p>		
評価方法	筆記試験60% レポート40%		
参考書 テキスト等	参考書:①国民衛生の動向2012/2013, 厚生労働統計協会 ②群馬県保健要覧25年度版, 群馬県保健予防課		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。</li> <li>2. 講義中の討論において、自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。</li> </ol>		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅰ(基礎)	英文名	Clinical Practice of Midwifery (Basics)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子、新井 基子		
時期・単位	1年前期 必修3単位 (135時間)		
指定規則	別表2:「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	周産期における母児とその家族を支援するため、教員・指導者と共に基本的な助産診断・助産能力と実習環境に対応した学習態度を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦健康診査を実践でき、妊婦への保健指導の目的と方法を説明できる。</li> <li>2. 助産過程を展開しながら、指導者とともに2～3例の助産を実践し、自らの課題を見出し述べるができる。</li> <li>3. 産褥新生児の助産診断とケアを実践できる。</li> <li>4. 周産期における保健指導の目的と方法を説明できる。</li> <li>5. 施設における助産管理を説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第1週目 ・分娩介助1例目:分娩経過、出産時期予測判断、あらゆる準備時期の指導を受け、指導者と共に手洗いと介助実施、助産録記載見学、後片付け。実習記録の総てに記録し指導者・教員の指導を得る。1例目の反省と2例目の目標立案(2日)</p> <p>・妊婦健康診査と保健指導の見学(2日)</p> <p>・分娩と助産ケアの見学(1日)</p> <p>第2週目 ・分娩介助2～3例目:産婦助産計画立案、分娩予測判断、あらゆる準備、介助の技術目標を立てて、指導者の許可を得て、共に手洗い・介助。新生児の観察の実施。学生の助産録記載し、報告し指導を得る。実習記録のすべてに記載し2例目の反省と3例目の目標立案(2日)</p> <p>・産褥新生児の診断とケア(1日)</p> <p>・保健指導(個人・集団)の見学(1日)</p> <p>第3週目 ・継続事例の決定(1日)</p> <p>・継続妊婦・保健指導立案案実施(4日)</p>		
評価方法	課題習得度70% 参加度30%		
参考書 テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	【備考】 ・1週間(5日間)=45時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅱ(実践力開発)	英文名	Clinical Practice of Midwifery II (Practical Development)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子、新井 基子		
時期・単位	1年後期 必修4単位 (180時間)		
指定規則	別表2:「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	女性と周産期における母児とその家族を支援するため、女性や妊産褥婦や家族とのかかわりができ、助産診断・技術能力を高め、助産師としての態度を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産過程が展開でき、指導のもとに4例の助産技術を1例づつ高めながら実践できる。</li> <li>2. 助産における間接介助と新生児のケアを実践できる。</li> <li>3. エビデンスに基づき女性並びに周産期における保健指導を助言のもとに実践できる。</li> <li>4. 女性並びに妊婦、産婦、褥婦の健康診査と診断に基づきケアの実践ができる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1週目 第2週目 第3週目 第4週目 第1～4週目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助(4例目)と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ(2日間)</li> <li>・間接介助の実施に関する指導(1日間)</li> <li>・分娩介助(5例目)と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ(2日間)</li> <li>・分娩直後の産婦ケア・褥婦への指導・助言(1日間)</li> <li>・分娩介助(6例目)と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ(2日間)</li> <li>・分娩直後の新生児ケア・早期新生児へのケア指導・助言(1日間)</li> <li>・分娩介助(7例目)と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ(2日間)</li> <li>・助産過程の展開とケアの実際の助言指導(3日間)</li> <li>・妊婦褥婦保健指導案(個人・集団)の立案と実施の指導助言(3日間)</li> <li>・妊婦健診の指導・助言(3日間)</li> </ul> <p>*上記分娩介助3例目以降の実習の中に、妊娠期から出産後1か月まで継続して受け持つ事例を含むことができる。</p>	
評価方法	課題習得度70% 参加度30%		
参考書 テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	<b>【備考】</b> ・開講時期：1年次1月後半～2月 ・1週間(5日間)＝45時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅲ(実践力発展)	英文名	Clinical Practice of Midwifery III (Practical Advanced)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	1年後期 必修3単位 (135時間)		
指定規則	別表2:「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	既習の助産診断・技術能力を統合させて、自律と連携に向けた確かな技術の確認と発展を目指し、経験知の科学的考察のための基盤を築く。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の知識・技術を統合し、助産過程に基づいた助産を自律的に3例実践できる。</li> <li>2. 周産期における多職種連携チームの一員として、周産期のカンファレンスに参加し、課題解決に取り組むことができる。</li> <li>3. 継続事例の2例について妊娠から助産を含めた出産育児ケア・指導の実践ができる。</li> <li>4. 周産期における保健指導を助言のもとに実践できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助(8例目～10例目)自律的な助産過程を展開し、助産を実践する(3日間)</li> <li>・継続ケア2例(妊娠期の診断と援助、保健指導の実施、助産、産褥期の診断と援助、保健指導の実施、1ヶ月健診、家庭訪問)(5日間、継続事例の経過に合わせて日程を決める)</li> <li>・妊婦(初期1例、中期1例、後期1例)と褥婦・新生児(各3例)の健康状態を診断でき、ケアを実践する(4日間)</li> <li>・保健指導案(個人、集団)の立案と実施、評価(3日間)</li> <li>・臨地多職種とのカンファレンスに参加する</li> <li>・ウィメンズヘルスケアを実践できる</li> </ul>		
評価方法	継続事例2例の総合的まとめ 50% 継続事例より学んだ課題と今後に向けた対策レポート 50%		
参考書 テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	<b>【備考】</b> ・開講時期：1年次2月第4週～3月 ・1週間(5日間)＝45時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅳ(助産管理)	英文名	Clinical Practice of Midwifery IV (Midwifery Management)
担当者	新野 由子、久保田 隆子		
時期・単位	2年前期 必修1単位(45時間)		
指定規則	別表2:「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	助産師が活動する地域、及び産科棟での役割と責任、業務の推進にかかわる助産管理の実際を学ぶとともに、現状の課題を理解し、解決のための方策を考えることができる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療報酬や自由診療、出産育児一時金などの社会保障を理解し、説明できる。</li> <li>2. 管理の実際を理解でき、課題を見つけられる。</li> <li>3. 助産施設の医療安全対策とアメニティの向上に関する業務の実際を説明出来る。</li> <li>4. 助産師の倫理と理念に基づいた母子の継続ケア、並びにウイメンズヘルス・ケアを実践できる。</li> <li>5. 関係諸記録の種類の確認と記載、保管の実際を説明出来る。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日目</li> <li>2・3 日目</li> <li>4・5 日目</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習の文献検索(見学時の観察ポイントの確認、経営に関しての知識(診療報酬と自由診療等)と整理)</li> <li>・病院・助産所実習、マネージメントの実際を見学、多職種協同の実際に参画</li> <li>・実習後グループディスカッション</li> <li>・まとめ、レポート作成</li> </ul>	
評価方法	レポート60% 発表40%		
参考書 テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	予習を行い、体調を整えて実習に臨むこと。 【備考】 1週間(5日間)=45時間		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅰ(EBPM探究)	英文名	Practice of Midwifery I (Search for EBPM)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	1年後期 必修2単位(30時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM (Eviencce Based Practice Midwifery)とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産にかかわる注目すべき技術を標記し、意義と課題を説明出来る。</li> <li>2. 課題を明確にし、文献にたどり着きクリティークしたけっかを報告できる。</li> <li>3. 研究目的の焦点化と課題を明確にし説明出来る。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回</li> <li>第2回～第3回</li> <li>第4回～第5回</li> <li>第6回～第8回</li> <li>第9回～第11回</li> <li>第12回～第13回</li> <li>第14回～第15回</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EBPMの歴史、助産学にかかわる内外研究の紹介(今関)</li> <li>助産学にかかわる内外研究紹介と購読、グループワーク(久保田)</li> <li>助産技術文献のクリティーク(新野)</li> <li>文献のクリティークと研究目的の焦点化(新野)</li> <li>研究テーマの設定(今関)</li> <li>研究枠組みの作成(新野)</li> <li>理論的サブストラクショを基に研究計画書作成(新野)</li> </ul>	
評価方法	レポート100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト:①小笠原知枝・他編:これからの看護研究—基礎と応用—,ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究を行ってゆくため、ここでの講義において予習・復習を行い、自分の研究テーマなどを念頭におきながら学びを深めていくこと。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅱ(EBPM展開)	英文名	Practice of Midwifery II (Extending for EBPM)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年前期 必修2単位(30時間)		
当該科目の目的	講義目的	研究テーマ、理論的サブストラクショに基づいて、助産技術のエビデンスを踏まえた研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的過程を踏まえて、プレテストとして助産技術を展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。</li> <li>2. 技術の介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。</li> <li>3. 倫理的条件を満たし、倫理的条件を満たした必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。</li> <li>4. 研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>4月</li> <li>5月</li> <li>6月</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉</li> <li>対象者の選定と実施手続き</li> <li>介入プログラム・効果判定指標等の点検</li> <li>研究展開のプレテストによるデータ収集</li> <li>実施方法の再点検、修正、研究計画書完成</li> </ul>	
評価方法	レポート100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト:①小笠原知枝・他編:これからの看護研究—基礎と応用—,ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究をすすめていくために、困った時は積極的に指導教員からアドバイスを受けること。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅲ(地域実践)	英文名	Practice of Midwifery Ⅲ (Community Practice)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年通年 必修3単位(90時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産所(院内助産所)、地域社会における母子保健活動の連携、周産期母子コーディネーターに関して、選定した実践拠点において、助産学にかかわる自己課題に対する統合実習を行い、助産学における理念、技術、思考の熟成を含め、課題を達成する。 * 地域連携の助産所(今関)、院内助産所(新野)、病院(久保田)が担当	
	到達目標	1. 自己課題に対応した実習場所を決め、交渉できる。 2. 実習計画を企画し、立案できる。 3. 実習計画に基づき実践し、課題を達成できる。	
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">実習準備</p> <p>5月 課題目的に沿った地域実践の実施  地域実践の拠点  院内助産所：助産所とうみ  地域連携：寿助産所(高崎地区の産後母子訪問システムの調整役)  周産期搬送コーディネーター：県立小児医療センター  まとめ</p>		
評価方法	レポート100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	今までの知識の統合をしたうえで、積極的かつ主体的に取り組むこと。 【備考】 1週間(5日間)=45時間		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学課題研究	英文名	Field Study
担当者	新野 由子		
時期・単位	2年通年 必修4単位(120時間)		
当該科目の目的	講義目的	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。	
	到達目標	1. 研究のフィールドに教員と共に交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。	
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月から1月に開講</p> <p>7月 研究倫理審査  8~9月  10月 中間発表会  11月 データ分析  12~1月 修士論文作成</p>		
評価方法	研究成果100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	積極的かつ主体的に取り組むこと。 時間の管理を心がけること。		

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学課題研究	英文名	Field Study										
担当者	今関 節子												
時期・単位	2年通年 必修4単位(120時間)												
当該科目の目的	講義目的	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。											
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のフィールドに教員と共に交渉できる。</li> <li>2. 研究倫理審査に対応できる。</li> <li>3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。</li> </ol>											
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月から1月に開講</p> <table> <tr> <td>7月</td> <td>研究倫理審査</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>中間発表会</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>データ分析</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>修士論文作成</td> </tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果100%												
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 焦点化した課題に関わる文献を収集し、抄読し、クリティークして、学習した方式に基づいて文献集として整理していき、研究計画の構築、分析、論文作成に備えて活用する。</li> <li>2. 院全体の研究実施・発表・論文提出の予定に基づいて、各自の研究進捗状況計画を立案して、自律的に進めていけるよう整える。</li> </ol>												

科目区分	助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学課題研究	英文名	Field Study										
担当者	久保田 隆子												
時期・単位	2年通年 必修4単位(120時間)												
当該科目の目的	講義目的	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。											
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のフィールドに教員と共に交渉できる。</li> <li>2. 研究倫理審査に対応できる。</li> <li>3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。</li> </ol>											
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月から1月に開講</p> <table> <tr> <td>7月</td> <td>研究倫理審査</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>中間発表会</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>データ分析</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>修士論文作成</td> </tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果100%												
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	自分が研究目的とするテーマに近い文献を集めること。 文献リストを作成すること。 研究に必要な書籍を調べること。												

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅰ	英文名	Advanced Theory of Midwifery I
担当者	今関 節子、竹内 正人、大石 時子		
時期・単位	1年前期 必修1単位 (15時間)		
当該科目の目的	講義目的	性と生殖のケアにかかわる専門家としての学び方、進み方、保健、社会・文化的役割期待を自覚し、専門家としての倫理に基づき助産学独自の領域を開発し、構築していく方途を探索し、明らかにすることを目的とする。	
	到達目標	実践開発領域学生： ①助産学独自の対象へのアプローチ、ケア特質について、自己の具体的経験知よりEBPMへの考察を深め、新たに学ぶ文化的、歴史的背景も含めて説明出来る。 ②内外並びに地域社会の中での助産・助産師としての従来の経験を基盤にした新たな活動戦略を目指し、本課程における独自の学習計画を、説明出来る。	
当該科目の内容・計画	第1回 種の存続への過程で女性があみだした未代性 <sup>注</sup> ケア討論 (今関) 第2回 EBPMのルーツと産科実践への導入 (今関) 第3回 ポートフォリオ手法の活用と各自のポートフォリオ (今関) 第4回 助産学独自の観察視点と意義 (今関) 第5回 女性にとって望ましい出産環境 (総論) (竹内) 第6回 女性にとって望ましい出産環境 (事例の紹介と考察) (竹内) 第7回 日本における開業・施設内助産師有機的連携と地域貢献戦略 (今関) 第8回 産科・助産をめぐるトピックスと助産師の挑戦 (ICMより) (大石)  注) 男性の一代性 (森崎和江) に対して助成と次世代における未来に対して用いた		
評価方法	将来の目指す方向と本課程における自己の学習計画100%		
参考書 テキスト等	テキスト：①成田伸:助産師基礎教育テキスト1 ②助産師業務要覧第2版 (基礎編、実践編), 看護協会出版会 参考図書：①鈴木敏江:ポートフォリオ評価とコーチング手法. 医学書院 ②木村尚子: 出産と生殖をめぐる攻防, 大月書店 ③ジェームズC. コリンズ: ビジョナリーカンパニー, 日経BP社 ④その他資料で提供		
授業外学習の内容	1. 種の存続にかかわるあらゆる動植物の中から各自一つの種を選んで、その過程を映像、書物、体験・観察、物語のどこからでもよいが記述し、それを通して種の存続とその努力にかかわる各自の概念をまとめる、授業終了時提出する。 2. 各自のポートフォリオを作成し、課程を修了まで継続していく。 3. 群馬県の周産期医療体制整備計画について調べ、第7回の授業で戦略として実際との有機的な位置づけに提案していただく。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅱ (ウィメンズヘルス)	英文名	Advanced Theory of Midwifery II (Women's Health)
担当者	久保田 隆子		
時期・単位	1年後期 選択2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。	
	到達目標	1. 思春期男女に対する基本的姿勢と、心身の理解の基に相談や、適切な対応ができる。 2. 男女のセクシュアリティの特性を理解し、健全な性の発達、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3. 性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題、問題対応について説明出来る。 4. グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォローアップを発揮できる。	
当該科目の内容・計画	第1回 思春期女性の支援 (ピルを含む) (久保田) 第2回 思春期女性の支援グループワーク (久保田) 第3回 女性とパートナーに対する支援 (久保田) 第4回 女性とパートナーに対する支援: 事例展開とグループワーク (久保田) 第5回 女性とパートナーに対する支援: 事例展開とグループワーク (久保田) 第6回 不妊の悩みを持つ女性の現状と事例討論 (久保田) 第7回 不妊女性を取り巻く家族・社会と事例の討論 (久保田) 第8回 不妊の悩みを持つ女性に対する支援グループワーク (久保田) 第9回 不妊の女性と家族に対する支援と社会に対する啓蒙まとめ発表 (久保田) 第10回 中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴 (久保田) 第11回 中高年女性に対する支援: グループワークとまとめ (久保田) 第12回 性感染症予防と支援 (子宮頸がん予防とワクチン啓蒙) (久保田) 第13回 性感染症予防と支援グループワークとまとめ (久保田) 第14回 女性と月経、月経障害について (久保田) 第15回 月経障害に対する支援と教育グループワーク (久保田)		
評価方法	筆記試験70% レポート30%		
参考書 テキスト等	テキスト：①吉沢豊予子: 助産師基礎教育テキスト2, 看護協会出版会 ②村本淳子他編: ウィメンズヘルス ナーシング概論女性の健康と看護, ヌーベルヒロカワ 参考書：③ウィメンズヘルス事典-女性のからだところガイド, 日本母性衛生学会		
授業外学習の内容	受胎調節実施指導員としての内容と自助グループについての発表会を行う。企画書作成は助産師活動の参考になるような内容として作成すること。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目																				
科目名	助産学特論Ⅲ(助産管理)	英文名	Advanced Theory of Midwifery Ⅲ (Midwifery Management)																		
担当者	寺田 眞廣、村上 睦子																				
時期・単位	1年後期 必修1単位 (30時間)																				
当該科目の目的	講義目的	助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。																			
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務に関する法律を理解し説明できる。</li> <li>2. 助産管理の方法を理解し、説明できる。</li> <li>3. 安全管理のあり方を理解し、説明できる。</li> <li>4. 自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の側面における姿勢を説明できる。(各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理)</li> </ol>																			
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr><td>第1回～第2回</td><td>助産業務・管理の概念(村上)</td></tr> <tr><td>第3回～第5回</td><td>助産業務管理過程の方法と実際(寺田)</td></tr> <tr><td>第6回～第7回</td><td>助産業務に関連する法規(法的責務)(寺田)</td></tr> <tr><td>第8回～第9回</td><td>助産業務に関連する法規(法的施策)(寺田)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>助産業務管理の実際(病産院)(村上)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(村上)</td></tr> <tr><td>第12回～第13回</td><td>周産期における安全管理・危機管理(寺田)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>助産師と災害対策(寺田)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>助産師のキャリア形成、後輩助産師の育成(寺田)</td></tr> </table>			第1回～第2回	助産業務・管理の概念(村上)	第3回～第5回	助産業務管理過程の方法と実際(寺田)	第6回～第7回	助産業務に関連する法規(法的責務)(寺田)	第8回～第9回	助産業務に関連する法規(法的施策)(寺田)	第10回	助産業務管理の実際(病産院)(村上)	第11回	助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(村上)	第12回～第13回	周産期における安全管理・危機管理(寺田)	第14回	助産師と災害対策(寺田)	第15回	助産師のキャリア形成、後輩助産師の育成(寺田)
第1回～第2回	助産業務・管理の概念(村上)																				
第3回～第5回	助産業務管理過程の方法と実際(寺田)																				
第6回～第7回	助産業務に関連する法規(法的責務)(寺田)																				
第8回～第9回	助産業務に関連する法規(法的施策)(寺田)																				
第10回	助産業務管理の実際(病産院)(村上)																				
第11回	助産業務管理の実際(含助産所等の連携)(村上)																				
第12回～第13回	周産期における安全管理・危機管理(寺田)																				
第14回	助産師と災害対策(寺田)																				
第15回	助産師のキャリア形成、後輩助産師の育成(寺田)																				
評価方法	筆記試験50% レポート「私の想定する施設と助産管理の姿勢」50%																				
参考書テキスト等	テキスト：①我部山・他：助産学講座10, 医学書院 ②助産業務要覧, 看護協会出版会 ③成田：助産師基礎教育テキスト3, 看護協会出版会 参考書：看護六法(平成25年版), 新日本法規																				
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。																				

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目																																
科目名	助産学特論Ⅳ(開業・院内助産)	英文名	Advanced Theory of Midwifery IV (Independent Practice of Midwifery)																														
担当者	新野 由子、西山 信之、宮下 美代子																																
時期・単位	1年後期 必修1単位 (30時間)																																
当該科目の目的	講義目的	地域において助産所を開業したり、院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。																															
	到達目標	<p>実践開発領域学生：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営や、経営戦略を理解し、具体的方略を説明ができる。</li> <li>2. マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、人と人との調整ができる。</li> <li>3. リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。</li> <li>4. 行政への働きかけ(産後母子訪問システム等の実績等)、NPO法人の取得・運営を理解し、自己の企画書を発表できる。</li> <li>5. 助産に関係する各種ガイドラインを理解し、実践に向けた説明ができる。</li> </ol>																															
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>助産師の自律と多職種協働(内外)のあり方(新野)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>助産師の自律と人間関係の調整(新野)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>病院における経営と経営戦略について(西山)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>病院における経営戦略の実際(西山)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>助産所における経営と経営戦略(宮下)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>助産所における経営戦略の実際(宮下)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開(新野)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>医療事故防止、感染予防対策、災害対策等(新野)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>院内助産システムと助産師の自律について(新野)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>助産師の自律(パースセンターの設立経験から)(新野)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>行政への働きかけ(産後母子訪問システムの実績等)(新野)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>NPO法人の取得(新野)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>周産期に関連する様々なガイドラインー産婦人科診療ガイドライン(新野)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>早期母子接触実施の留意点(新野)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>エビデンスに基づく助産ガイドラインー分娩期2012(新野)</td></tr> </table>			第1回	助産師の自律と多職種協働(内外)のあり方(新野)	第2回	助産師の自律と人間関係の調整(新野)	第3回	病院における経営と経営戦略について(西山)	第4回	病院における経営戦略の実際(西山)	第5回	助産所における経営と経営戦略(宮下)	第6回	助産所における経営戦略の実際(宮下)	第7回	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開(新野)	第8回	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等(新野)	第9回	院内助産システムと助産師の自律について(新野)	第10回	助産師の自律(パースセンターの設立経験から)(新野)	第11回	行政への働きかけ(産後母子訪問システムの実績等)(新野)	第12回	NPO法人の取得(新野)	第13回	周産期に関連する様々なガイドラインー産婦人科診療ガイドライン(新野)	第14回	早期母子接触実施の留意点(新野)	第15回	エビデンスに基づく助産ガイドラインー分娩期2012(新野)
第1回	助産師の自律と多職種協働(内外)のあり方(新野)																																
第2回	助産師の自律と人間関係の調整(新野)																																
第3回	病院における経営と経営戦略について(西山)																																
第4回	病院における経営戦略の実際(西山)																																
第5回	助産所における経営と経営戦略(宮下)																																
第6回	助産所における経営戦略の実際(宮下)																																
第7回	医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開(新野)																																
第8回	医療事故防止、感染予防対策、災害対策等(新野)																																
第9回	院内助産システムと助産師の自律について(新野)																																
第10回	助産師の自律(パースセンターの設立経験から)(新野)																																
第11回	行政への働きかけ(産後母子訪問システムの実績等)(新野)																																
第12回	NPO法人の取得(新野)																																
第13回	周産期に関連する様々なガイドラインー産婦人科診療ガイドライン(新野)																																
第14回	早期母子接触実施の留意点(新野)																																
第15回	エビデンスに基づく助産ガイドラインー分娩期2012(新野)																																
評価方法	実践開発領域：グループワーク；リーダーシップ・発表30%、具体的企画書70% 助産師資格取得領域：グループワーク；フォローアップ30%、筆記試験70%																																
参考書テキスト等	ジェームズC. コリンズ：ビジョナリーカンパニー, 日経BP社 その他資料で提供																																
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。</li> <li>2. 講義中の討論で自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。</li> </ol>																																

科目区分		助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目	
科目名	助産における補完代替医療	英文名	Complementary and Alternative Care in Midwifery
担当者	今関 節子、山西 加織		
時期・単位	2年後期 選択2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人一人の状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に周産期に焦点をあててその目的、適用、実際に学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたっての安全性、倫理性の確認倫理が説明出来る。</li> <li>2. 各種代替医療を正しく理解し、十分な習得の元で適切に実施できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回 補完代替医療とリスクマネージメント (今関) 第 2 回 ヨガの基礎理論 (山西) 第 3 回 ヨガの実際 (山西) 第 4 回 妊産婦エクササイズの理論 (今関) 第 5 回 妊産婦エクササイズの実際 (今関) 第 6 回 マッサージ法 (今関) 第 7 回 呼吸法 (今関) 第 8 回 身体的リラクセス法 (今関) 第 9 回 心理的リラクセス法 (今関) 第 10 回 アロマ・ハーブに使われる精油 (今関) 第 11 回 女性のライフサイクルとアロマセラピー (今関) 第 12 回 クラニオセイクラルセラピー(CST)(頭蓋仙骨療法)の基礎理論 (今関) 第 13 回 クラニオセイクラルセラピーの実際 (今関) 第 14 回 各種電法 (今関) 第 15 回 各種電法の適用 (今関)		
評価方法	(各方法を選択して) レポート100%		
参考書テキスト等	参考書：①鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社 ②松本清一・他：妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会 ③今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂 ④その他その都度資料を配布する		
授業外学習の内容	一つの補完代替医療の技術を選んで、学習会・講習会・教室に自主的に参加し、学級活動等で考察を含めて披露し、自分の一つの助産技術として深めていくことに繋げること。		

科目区分		助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目	
科目名	女性のフィジカルアセスメント	英文名	Physical Assessment of Women
担当者	久保田 隆子、児玉 直樹		
時期・単位	1年前期 必修2単位 (60時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの観察項目、技法、評価について説明出来る。</li> <li>2. 女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第 1 回～第 2 回 助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義 (久保田) 第 3 回～第 4 回 思春期女性の身体の観察法 (久保田) 第 5 回～第 6 回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの方法 (久保田) 第 7 回～第 8 回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの実際 (久保田) 第 9 回～第 10 回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察法 (久保田) 第 11 回～第 12 回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察の実際とアセスメント (久保田) 第 13 回～第 14 回 婦人科的診察法の実際 (久保田) 第 15 回～第 16 回 婦人科的診察・検体採取法、アセスメントの実際 (久保田) 第 17 回～第 18 回 超音波診断装置による基礎的操作の理論 (児玉) 第 19 回～第 20 回 超音波診断装置による基礎的操作と検査一般・アセスメントの実際 (児玉) 第 21 回～第 22 回 乳房の診察法の基礎理論 (久保田) 第 23 回～第 24 回 乳房の診察法とアセスメントの実際 (久保田) 第 25 回～第 26 回 骨盤と骨盤底の基礎的理解 (久保田) 第 27 回～第 28 回 出産と骨盤・骨盤底の診察とアセスメント (久保田) 第 29 回～第 30 回 女性の加齢による骨盤底の診察・アセスメントとケア (久保田)		
評価方法	実技試験60% 筆記試験40%		
参考書テキスト等	参考書：①大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 ②吉沢豊子：女性の健康とケア、日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	演習が中心となる科目なので、助産診断技術の向上の為に説明ができるような知識を深めること。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	産婦人科医学診断	英文名	Gynecology Diagnosis
担当者	篠崎 博光、曾田 雅之、中村 和人		
時期・単位	1年前期 選択1単位 (15時間)		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。</li> <li>2. 婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。</li> <li>3. 女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 産婦人科診療 (篠崎) 第2回 女性性器の構造・女性の性機能 (篠崎) 第3回 月経とその異常 (篠崎) 第4回 婦人科検査 (篠崎) 第5回 女性性器の疾患① (中村) 第6回 女性性器の疾患② (中村) 第7回 加齢と疾患、ホルモン療法① (曾田) 第8回 加齢と疾患、ホルモン療法② (曾田)		
評価方法	筆記試験100%		
参考書 テキスト等	テキスト：①岡井 崇：標準産科婦人科学 (STANDARD TEXTBOOK), 医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	新生児学	英文名	Neonatology
担当者	丸山 憲一		
時期・単位	1年前期 必修1単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を習得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。</li> <li>2. 新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。</li> <li>3. ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。</li> <li>4. 緊急時に対応できる知識を理解できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回 新生児学総論、ハイリスク新生児の評価 第2回 新生児診断学 第3回 新生児の生理、発達 第4回 新生児の養護と管理 (ハイリスク新生児、NICU入院児を含む) 第5回 体温調節と保温 第6回 栄養の基礎と診療 第7回 水-電解質バランス 第8回 内分泌系・代謝系の異常 第9回 内分泌系・代謝系の異常と管理 第10回 呼吸器系の生理と診療 第11回 循環器系の基礎と診療 第12回 黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療 第13回 免疫系と感染 第14回 中枢神経系の障害と診療 第15回 先天異常と遺伝、主要疾患の病態と生理		
評価方法	筆記試験100%		
参考書 テキスト等	テキスト：①仁志田博司：新生児学入門(第4版), 医学書院		
授業外学習の内容			

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	周産期ハイリスク論Ⅰ	英文名	High risk of Perinatal ComplicationsⅠ
担当者	伊藤 理廣、竹中 恒久		
時期・単位	1年後期 必修1単位(30時間)		
当該科目の目的	講義目的	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べるができる。</li> <li>2. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。</li> <li>3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 胎児の発生と出生前診断（伊藤理）</p> <p>第2回 胎児の発生と出生前診断（伊藤理）</p> <p>第3回 不妊症（伊藤理）</p> <p>第4回 妊娠期の異常と診断 -異所性妊娠、流早産、人工妊娠中絶、死産、PIHと子癇、GDM（竹中）</p> <p>第5回 前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離（竹中）</p> <p>第6回 合併症：甲状腺機能異常、高血圧、糖尿病（竹中）</p> <p>第7回 合併症：子宮筋腫、心疾患、感染症（竹中）</p> <p>第8回 胎児の異常：多胎、胎児発育不全（竹中）</p> <p>第9回 分娩期の異常と診断。娩出力：陣痛の異常と分娩誘導、クリステレル胎児圧出法、VBAC（竹中）</p> <p>第10回 胎児：胎児位置異常（骨盤位分娩）回旋異常、胎児機能不全（竹中）</p> <p>第11回 産道：会陰裂傷・切開、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術（竹中）</p> <p>第12回 出血：弛緩出血、血栓症、産科ショック、子宮内反、産褥熱（竹中）</p> <p>第13回 妊産褥婦と薬物：妊娠、分娩、授乳に影響する薬剤（竹中）</p> <p>第14回 妊産褥婦と薬物：産科麻酔（竹中）</p> <p>第15回 母子免疫（竹中）</p>		
評価方法	筆記試験 100%		
参考書 テキスト等	テキスト①荒木勤：最新産科学（異常編），文光堂 ②岡井崇・他編：標準産科婦人科学（第4版），医学書院		
授業外学習の内容			

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	周産期ハイリスク論Ⅱ	英文名	High risk of Perinatal ComplicationsⅡ
担当者	高木 剛、伊藤 雄二、丸山 憲一		
時期・単位	1年後期 必修2単位(60時間)		
当該科目の目的	講義目的	周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した医療補助技術として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。	
	到達目標	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。	
当該科目の内容・計画	<p>第1回～第2回 胎児の評価と診断（超音波診断）理論（高木）</p> <p>第3回～第4回 胎児の評価と診断（超音波診断）基本操作演習（高木）</p> <p>第5回～第6回 分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技（高木）</p> <p>第7回～第8回 産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（高木）</p> <p>第9回～第10回 産道の異常：会陰縫合術基本の実際（高木）</p> <p>第11回～第12回 産道の異常：会陰縫合術の実際（高木）</p> <p>第13回～第14回 産道の異常：会陰縫合術実際と学生相互評価討論（高木）</p> <p>第15回～第16回 分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤雄）</p> <p>第17回～第18回 産科救急④（産科ショック、薬物療法）（伊藤雄）</p> <p>第19回～第20回 産科救急④（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤雄）</p> <p>第21回～第22回 娩出力の異常③：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤雄）</p> <p>第23回 娩出力の異常③：骨盤位分娩とその介助（伊藤雄）</p> <p>第24回～第25回 新生児蘇生法の基礎理論（丸山）</p> <p>第26回～第27回 新生児蘇生法の実技（丸山）</p> <p>第28回～第29回 新生児蘇生法の実技演習（丸山）</p> <p>第30回 新生児蘇生法相互評価討論（丸山）</p>		
評価方法	筆記試験60% 演習レポート40%		
参考書 テキスト等	テキスト：①荒木勤：最新産科学（異常編），文光堂 ②岡井崇・綾部琢哉：標準産科婦人科学（第4版），医学書院 参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断，東京医学社 ②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座（第2版），メディカ出版 ③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術-トラブルへの対応と会陰裂傷縫合（ブラッシュアップ助産学），医学書院 ④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく新生児蘇生法テキスト（第2版），メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト58-本当に知りたかった技とコツ，メディカ出版		
授業外学習の内容	胎児超音波検査と胎児心拍数モニタリングで用いられる基礎的な用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分		助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目	助産学共通科目															
科目名	地域母子保健実習	英文名	Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community															
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子																	
時期・単位	2年前期 選択1単位 (45時間)																	
当該科目の目的	講義目的	地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を見学、演習等様々な形で学び、より有効で新たな具体的転換の仕組みを構築し、実践活動能力の基礎を養う。																
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域診断の基本を理解し、説明ができる。</li> <li>2. 地域のアセスメントをし、地域の課題を見いだせる。</li> <li>3. 地域で実践されている母子への健康診査の方法や相談事業等を理解する。</li> <li>4. 事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。</li> </ol>																
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr> <td>第1日</td> <td>・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス</td> </tr> <tr> <td>第2日</td> <td>・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・行政や地域で行われている学級等への参画</td> </tr> <tr> <td>第3日</td> <td>・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画</td> </tr> <tr> <td>第4日</td> <td>・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画</td> </tr> <tr> <td>第5日</td> <td>・グループワーク：実際のクラスの企画から評価まで 学内演習、まとめ</td> </tr> </table>				第1日	・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス	第2日	・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画		・行政や地域で行われている学級等への参画	第3日	・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画		・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画	第4日	・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画	第5日	・グループワーク：実際のクラスの企画から評価まで 学内演習、まとめ
第1日	・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス																	
第2日	・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画																	
	・行政や地域で行われている学級等への参画																	
第3日	・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画																	
	・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画																	
第4日	・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画																	
第5日	・グループワーク：実際のクラスの企画から評価まで 学内演習、まとめ																	
評価方法	レポート50% 演習50%																	
参考書テキスト等	参考書：①群馬県保健要覧25年度版、群馬県保健予防課																	
授業外学習の内容	事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 【備考】 1週間(5日間)＝45時間																	

科目区分		助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目	助産学共通科目																	
科目名	母子保健政策論	英文名	Maternal and Child Health Policy																	
担当者	新野 由子、福島 富士子																			
時期・単位	1年後期 選択1単位 (15時間)																			
当該科目の目的	講義目的	政策の基礎的理論に基づいて、次世代の家族の健全な発展を目指した母子保健を推進していくための方策を学ぶ。実践的事例を通して方策の手法、維持、推進の過程を学ぶ。その上で、新たな課題を探索し、それに対する企画と実践につなげる政策を検討する。さらに、母子保健の課題解決のための助産師のリーダーシップのあり方を学ぶ。																		
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の母子保健の現状と動向について説明できる。</li> <li>2. 母子保健行政の仕組みや制度、施策に関する知識に基づき課題を説明できる。</li> <li>3. 母子保健のニーズ把握、及びサービス提供に必要な関係機関や関係職種との連携・調整・協働について課題を含めて説明できる。</li> <li>4. 母子保健を推進していくための助産師の役割や課題を説明できる。</li> <li>5. 母子保健を推進していくための助産師のリーダーシップのあり方を説明できる。</li> </ol>																		
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>母子保健施策の歴史と変遷 近代まで (新野)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>母子保健施策の歴史と変遷 現代 (新野)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>母子保健の概念、周産期トピックス (新野)</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>出産の医療化とその功罪、我が国の動向 (新野)</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>出産の医療化とその功罪、諸外国の動向 (新野)</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>母子保健の現状と動向、制度と施策 (福島)</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>地域母子保健計画と事業への参画 (福島)</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>政策決定への参画 (新野)</td> </tr> </table>				第1回	母子保健施策の歴史と変遷 近代まで (新野)	第2回	母子保健施策の歴史と変遷 現代 (新野)	第3回	母子保健の概念、周産期トピックス (新野)	第4回	出産の医療化とその功罪、我が国の動向 (新野)	第5回	出産の医療化とその功罪、諸外国の動向 (新野)	第6回	母子保健の現状と動向、制度と施策 (福島)	第7回	地域母子保健計画と事業への参画 (福島)	第8回	政策決定への参画 (新野)
第1回	母子保健施策の歴史と変遷 近代まで (新野)																			
第2回	母子保健施策の歴史と変遷 現代 (新野)																			
第3回	母子保健の概念、周産期トピックス (新野)																			
第4回	出産の医療化とその功罪、我が国の動向 (新野)																			
第5回	出産の医療化とその功罪、諸外国の動向 (新野)																			
第6回	母子保健の現状と動向、制度と施策 (福島)																			
第7回	地域母子保健計画と事業への参画 (福島)																			
第8回	政策決定への参画 (新野)																			
評価方法	レポート100%																			
参考書テキスト等	参考書：①大林道子：助産師の戦後、勁草書房 ②戸田律子訳：WHOの59カ条お産のケア実践ガイド、農文協 ③松岡悦子他編：世界の出産、勉誠出版 ④中山まき子：身体をめぐる政策と個人、勁草書房																			
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。</li> <li>2. 講義中の討論において、自分の意見を述べるよう準備しておくこと。</li> </ol>																			

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策演習	英文名	Advanced Practice of Maternal and Child Health Policy
担当者	新野 由子		
時期・単位	1年後期 選択2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	母子保健を推進するために母子保健のあり方を俯瞰し、政策の立案を行う国や地方議員、政策を施行する国や地方の行政機関、専門職団体などの具体的な活動について学ぶ。母子保健の現在の課題を見だし、解決に向けた対策の立案と助産実践ができる能力を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政策立案や法律の執行する立場の活動方法を理解し、説明できる。</li> <li>2. MFICU, NICU, GCUの理念を基に、周産期搬送コーディネートの役割を説明できる。</li> <li>3. 専門職団体の活動のあり方、社会への責任、サービス提供のための質の向上のための方策に基づき、説明できる。</li> <li>4. 政策を変えていく方法を理解し、自分なりの解決策を企画し発表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	事前準備	インターンシップに向けての情報収集、目的設定、先方との情報交換	
	第1～3日	自己のインターンシップに向けての実施企画と相談・先方との交渉 厚生労働省、都道府県や市町村行政、国会議員、地方議員専門職団体、周産期搬送コーディネートの現場等でのインターンシップオリエンテーション	
	第4日	インターンシップの実際(1日9時間) インターンシップで学んだことのグループ討議とまとめ、発表(3時間)	
評価方法	グループワーク・発表40% 筆記試験60%		
参考書テキスト等	①秋吉貴雄・他：公共政策学の基礎、有斐閣ブックス ②小熊英二：社会を変えるには、講談社現代新書		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が興味のある場合はどこなのか、事前によく考えておくこと。</li> <li>2. インターンシップに選んだ先方との交渉など、事務的な作業も積極的に行うこと。</li> </ol>		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学実践 I (EBPM探究)	英文名	Practice of Midwifery I (Search for EBPM)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	1年後期 必修2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM (Evidence Based Practice Midwifery)とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産にかかわる注目すべき技術を標記し、意義と課題を説明出来る。</li> <li>2. 課題を明確にし、文献にたどり着きクリティークしたけっかを報告できる。</li> <li>3. 研究目的の焦点化と課題を明確にし説明出来る。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	第1回	EBPMの歴史、助産学にかかわる内外研究の紹介(今関)	
	第2回～第3回	助産学にかかわる内外研究紹介と講読、グループワーク(久保田)	
	第4回～第5回	助産技術文献のクリティーク(新野)	
	第6回～第8回	文献のクリティークと研究目的の焦点化(新野)	
	第9回～第11回	研究テーマの設定(今関)	
	第12回～第13回	研究枠組みの作成(新野)	
	第14回～第15回	理論的サブストラクションを基に研究計画書作成(新野)	
評価方法	レポート100%		
参考書テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—、ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究を行ってゆくため、ここでの講義において予習・復習を行い、自分の研究テーマなどを念頭におきながら学びを深めていくこと。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学実践Ⅱ (EBPM展開)	英文名	Practice of Midwifery II (Extending for EBPM)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年前期 必修2単位 (30時間)		
当該科目の目的	講義目的	研究テーマ、理論的サブストラクションに基づいて、助産技術のエビデンスを踏まえた研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的過程を踏まえて、プレテストとして助産技術を展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。</li> <li>2. 技術の介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。</li> <li>3. 倫理的条件を満たし、倫理的条件を満たした必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。</li> <li>4. 研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>4月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き</p> <p>5月 介入プログラム・効果判定指標等の点検</p> <p>6月 研究展開のプレテストによるデータ収集 実施方法の再点検、修正、研究計画書完成</p>		
評価方法	レポート100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究をすすめていくために、困った時は積極的に指導教員からアドバイスを受けること。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学実践Ⅲ (地域実践)	英文名	Practice of Midwifery III (Community Practice)
担当者	新野 由子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年通年 必修3単位 (90時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産所（院内助産所）、地域社会における母子保健活動の連携、周産期母子コーディネーターに関して、選定した実践拠点において、助産学にかかわる自己課題に対する統合実習を行い、助産学における理念、技術、思考の熟成を含め、課題を達成する。 * 地域連携の助産所(今関)、院内助産所(新野)、病院(久保田)が担当	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己課題に対応した実習場所を決め、交渉できる。</li> <li>2. 実習計画を企画し、立案できる。</li> <li>3. 実習計画に基づき実践し、課題を達成できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>実習準備</p> <p>5月 課題目的に沿った地域実践の実施 地域実践の拠点 院内助産所：助産所とうみ 地域連携：寿助産所（高崎地区の産後母子訪問システムの調整役） 周産期搬送コーディネーター：県立小児医療センター まとめ</p>		
評価方法	レポート100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	今までの知識の統合をしたうえで、積極的かつ主体的に取り組むこと。 【備考】 1週間(5日間)＝45時間		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特別研究	英文名	Seminar for Master' s Thesis on Midwifery
担当者	新野 由子		
時期・単位	2年通年 必修6単位(180時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のフィールドと交渉できる。</li> <li>2. 研究倫理審査に対応できる。</li> <li>3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月までには研究倫理審査</p> <p>7月 研究倫理審査 8～9月 データ収集 10月 中間発表会 11月 データ分析 12～1月 修士論文作成</p>		
評価方法	研究成果100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	積極的かつ主体的に取り組むこと。 体調管理にも配慮すること。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特別研究	英文名	Seminar for Master' s Thesis on Midwifery
担当者	久保田 隆子		
時期・単位	2年通年 必修6単位(180時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のフィールドと交渉できる。</li> <li>2. 研究倫理審査に対応できる。</li> <li>3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月までには研究倫理審査</p> <p>7月 研究倫理審査 8～9月 データ収集 10月 中間発表会 11月 データ分析 12～1月 修士論文作成</p>		
評価方法	研究成果100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	自分が研究目的とするテーマに近い文献を集めること。 文献リストを作成すること。 研究に必要な書籍を調べること。		

科目区分	助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特別研究	英文名	Seminar for Master' s Thesis on Midwifery
担当者	今関 節子		
時期・単位	2年通年 必修6単位(180時間)		
当該科目の目的	講義目的	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習のフィールドと交渉できる。</li> <li>2. 研究倫理審査に対応できる。</li> <li>3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。</li> </ol>	
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月までには研究倫理審査</p> <p>7月 研究倫理審査 8～9月 データ収集 10月 中間発表会 11月 データ分析 12～1月 修士論文作成</p>		
評価方法	研究成果100%		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 焦点化した課題に関わる文献を収集し、抄読し、クリティークして、学習した方式に基づいて文献集として整理していき、研究計画の構築、分析、論文作成に備えて活用する。</li> <li>2. 院全体の研究実施・発表・論文提出の予定に基づいて、各自の研究進捗状況計画を立案して、自律的に進めていけるよう整える。</li> </ol>		